

在 國 日 本 公 使 館

大臣

次官

公 第 二 五 號

七月廿四日接覽

主 管 廣 務 課



政 務 局

會 計 課

二 五 一 一

別紙外交官之養成獎勵等之儀旨畑書池安之
 意旨見書別紙下、進呈は左様申出左處言説
 危激ニ涉リ考案窮絶ニ瀕スル之虞ニ有シ左様共
 我外交ノ困難ヲ描出シテ忌憚ナク其事情ヲ陳説
 スル處及テ御参考ノ一資料ヲラント存候旨茲ニ
 進達致候致具

明治三十年六月十日

在 候 回 公

特 命 全 權 公 使 高 木 小 五 郎

外 務 省 白 書 大 隈 重 信 殿



外交官養成獎勵策

完

目次

一 緒論
一本論

第一篇

外交官，資格

本質的資格

(學識上資格)

(性質上資格)

助質的資格

(財產上資格)

(身分上資格)

(外觀上資格)

第二篇

第一章

外交官，任用

一 外交官任用，標準及手續

一 外交官選拔，範圍

一 學識的試驗

一 性質的試驗

第二章 外交官，待遇

一 外交官待遇，標準

一 外交官待遇，方法

第一 外交官ヲ終身官トナス

第二 官等ヲ高ノ俸給ヲ増ス

甲 外交官(領事官)官等俸給

乙 外務省高等官々等俸給

丙 進級停年

丁 年齡滿期

戊 外交官及公使館書記生在勤俸

己 妻携帶費

庚 寶石ヲ各館ニ備付クル

辛 出差前加俸改正

壬 家賃補助料及家具買入補助料

第三 一定，期限間勤績，公使ヲ率族ニ

列スル

第四 外交官恩給令特定

第三章 外交官，練習

一 語學，練習

一 事務的勤務，練習

一 交際的勤務，練習

一 外交官能力判定，標準

一 書記生派遣，必要

第四章 外交官、監督及檢閲

第一 外交官、監督

一 外交官監督標準

一 壯年外交官、教育及誘導

一 外交監督委員會、組織及權限

第二 外交官、檢閲

一 外交官檢閲標準

一 外交官檢閲官、任命及權限

一 結論

目次終

外交官養成獎勵策



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

緒論

平壤突城ノ聲高ク吾界ニ徹シ咸海素水雷ノ
響音達リ万国ニ轟キ空前絶後ノ大捷ニ滿天下
ノ耳目ヲ聳動シ陸海軍ノ名譽ハ四海ニ耀キ
廿余年来日扱洋國ノ苦害セル条約改正事
業ハ略其完結ヲ告ゲ七集之後三陸ニ五十萬
ノ精兵ヲ備ヘ可ク海ニ廿余万噸ノ堅艦ヲ浮ブ

可シ海運ハ陸路ノ支通ト對立駢進シクハ月ノ發
進シ教育殖産及貿易ノ業モ亦駢々乎トシテ
進シ躡起一躍宇内ノ競争場裡ニ闖入シタル
モ、是即我日本帝國ナリ

然ルニ眼ヲ故ツテ對岸ヲ見渡セバ西伯利亞鐵
道數年ナラスレテ竣工ス可クコサツクノ騎兵ハ
數國ヲヒデスレテ日本海ノ西濱ニ到リ着スルヲ始
可シ露國ノ一嘆一歎ハ歐洲諸國ト當ニ喜憂ヲ
振キ法蘭西國ヲ其顯使スル所ニ任ス此ニ於テカ
露國ノ極東政界ハ裕然其処ヲ以テメ々々黃海
ノ濱氷結ヲ見サルノ良港ニ三色旗ヲ翻スノ堅
艦艦艘比没自在ナラントシテ英國之シニ拮抗ス
ル能ハス莫露ノ權衡其軸ヲ換ヘ後者ノ勢力

熾シク支那朝鮮ニ壓入シ戰勝後ノ日本ニ一舉
一劔列國ノ猜疑ヲ振キ一姓一區其海運ニ可從
ガシ虎狼ノ牙ヲ啗ラシテ隣ヲ窺ヒ巨艦ハ爪ヲ砥ギ
テ以テ機倉ニ乘セントス老朽ノ古リ我帝國ノ軍
何ヲ以テカ宇内列國競争ノ烽火中ニ屹立シ平
和的ノ競争ニ於テモ戰爭的ノ競争ニ於テモ能ク
其間ニ安理シ進取ヲ活潑雄毅ニ決内ノ國民ノ
福利ヲ増進シテ國運ヲ隆盛ナラシメ外ノ國權ヲ
伸張シテ國勢ヲ振達スルヲ以テ得可キカ、他ナシ
得ルト得サルトハ其道ヲ得ルト否道ヲ得ザルトニアリ
何ヲカ其途ヲ得ルト謂フヤ陸海ノ軍備國ヲ張
ラサル可カラズ、財政國ヲ理セサル可カラズ、教育國
ヲ重シセサル可カラズ、海運國ヲ獎勵セサル可カ

ラ又鐵道固ヨリ布設セサル可カラス、殖産工藝亦
固ヨリ精密保護セサル可カラズト雖モ各般ノ行政
都^ニ當^ル路^者甚^ク人^ヲ得^ル實^ニ自^己之^力以^テ之^ヲ爲^スル
特^ニ外^交其^人ヲ得^ル實^ニ自^己之^力以^テ之^ヲ爲^スル
トス

古上日本ノ陸海軍、其^レ名譽アル戦勝ヲ爲シ先
ドモ日本ノ外交ハ三國ノ干渉スル處トナリテ失敗シ
タリトノ謠言爲ス若シナカラズ、^レ又^レ一知人^ハ何ガ故
日本軍ノ勝チ何ガ故^ニ日本ノ外交ハ敗レルヤ付
最モ尙早ナル論理船^ノ名譽ヲ爲シテ曰ク「日本
軍ハ精練ナリ故^ニ日本軍勝チタリ日本ノ外交
友^ハ未精練ナリ故^ニ日本ノ外交ハ敗レルヤ精練
ナル軍隊勝チ未精練ナル外交友ハ敗レル蓋シ

自然ノ数ナリト

又^レ決シテ日本ノ陸海軍ヲ目シテ自然精練ナリ
ト説キ又日本ノ外交友ヲ目シテ一モ二モナク未精
練ナリト新説スルモニアラス、日本陸海軍特^ニ
後者^ニアリテハ從來屬^ス人^ノ非難ヲ蒙リ若シ
可キ^レ点^少ナカラサル可ク又今^レ此^レ迄陸海軍
ノ施政者其^レ當^ルヲ得タルニ非サル可シト雖モ要スル
強^ク以^テ來^ル前^ニ強^ト其^レ内^ニ諾^ク股^ノ學^ヲ找^リ設
ケ^テ造^リ教師^ヲ海外^ニ聘^シテ^テ其^レ友^ヲ當^ル成^シ外^ニ
人^才ヲ各^國ニ遣^ハシテ^テ其^レ友^ノ學^ヲ制^ヲ研^究セシメ
国力^ノ及^ブ限^リ財政^ノ許^ス限^リ迄^リ陸海軍
備^ヲ用^{フル}ト曰^フ熱^心銳^意力^ヲ盡^ス友^ノ當^ル成^シ
こ場^ニタル^ハ衆^目ノ見^ル所^ニ満^タ下^ニ認^ル所^ナリ

征伐ノ後王師一冬と云キテ向テ所敵ナリ亞州ノ
大陸ヲ風靡シテ裕然大陸ヲ得タルモノ豈夫レ
偶然ナラシヤ

今眼ヲ轉ジテ外交界ヲ見テ幾多ク其政
府ガ陸海軍ノ士友ヲ養成シタル程ノ熱心ヲ精
勵シテ以テ外交界ヲ訓練養成シタルノ形跡ナキ
ガ如シ蓋シ其形跡ヲ見ザルノミナラズ即チ入り先ル者
ハ夕ニ此ヲ時進ミタルモノハ退ク之レハ是レ我外
交社層ノ通觀其十年廿年又ハ卅年外交界
ニ立テ今其其淺ク我人カアル然レ陸海
軍將友ノ大部ハ概テ陸海軍以テ育テ續キテ其
職ニ從事シ他友ノ一部及尉友ノ大部ハ完然
正武ナル教育ヲ受ケタルモノナリ之レヲ外交社

層ト比較スル者成ニ上ヲ見ルニ陸海軍ノ上ヲ
論スルモ決シテ同ノ論ニアラサルナリ

昨年ノ如ク大将カ露國冠式ハ陸海軍
奉迎ノ御巴里ニ於テ佛國外務大臣アルト云フ
面層ノ際同大臣ハ如ク大将ノ向ヒ貴國陸海軍
ハ本邑ノ佳歩ヲ為シ名譽ノ勝利ヲ得タリ
貴國ノ外交ハ未ダ陸海軍ノ權限ニ達シテ

ト云ハレタリト云フ
人若シ外交界ナルモノヲ識リ有スル機敏英才ノ
人ニシテ其組織外交ニ関スル學識ヲ備ヘス又外交ニ
関スル經驗ヲ積マサルモノナラズナキモノ如ク思惟モ
是レ余ノ外交界ノ本質ヲ解セサルモノナリ社層
何レノ新カ機敏ノ士ヲ得タサランヤ英才ノ士ヲ

マサラヤ然ルモ其機敏英才ノ士タル其括ル所ノ社
會ニ関スル事理ヲ知リ又之ニ関スル理ヲ横ミ
タルモノナラサル可カラズ丁汝昌ノ敗レタルハ其機敏
英才ナラサルガためナラズシテ海軍ニ関スル學識ヲ
備ヘス海戰ノ術ニ長ゼサリシニ機由セルモノトセバ
外交ノ學ヲ修メス外交ノ術ヲ習ハサル外交ヲ有
スル國ノ外交ガ外交ノ學ニ通曉シヨク外交ノ術ニ
熟習シ不カモ機敏ニシテ雄畧アル外交ヲ有スル
國ノ外交ニ對シテ手際ヨキ失敗ダモ獲ル能ハサリシ
トスルモ法シテ怪ムコトナラサルナリ
之レヲ要スルニ外交官一種ノ專門家ナラサル可カラズ
換テ之レヲ專門ノ養成ヲ受ケ專門ノ練習ヲ爲シ
專門ノ理ヲ横ミタルモノナラサル可カラズ若シ夫レ

外交ニ関スル學識理ヲナキ機敏英才ノ士ニ外
交事務ヲ委任スルガ如キ一アラハ是レ怪ヲ留師
ニ關スル學識理ヲナキ機敏英才ノ士ニ患若ク
委託スルト一被國家ノ危險並ニ之レヲ大ナルナシ
嗚呼知ラサル可カラサルモノハ外交官ノ資格ナリ
慎マサル可カラサルモノハ外交官ノ模倣ナリ其他外
交官ノ待遇、練習、學識、是レ皆遠謀周密
當ニ及ラザル完ス可キ重要問題ナリ然ラハ
則チ其資格ノ要件如何其模倣ノ標準如何
何又其待遇ノ方法如何又其練習及學識ノ
手如何如何模倣スルハ良外交官ヲ得テ外交ヲ振
張スル策如何之レ即チ本論ノ問題ナリ

本論

第一篇

外交官ノ資格

往古多邦列國ニ於テハ身類書言、四ヲ以テ外交官ノ資格ト爲シタリト云フ蓋シ故アルナリ我ニ於テハ後來外交官ノ資格ニ關スル一定ノ標準アルヲ聞カザリシガ如ク明治六年十月廿四日、勅令第二万七千三百三十四號外交官領事官試験規則、發布アリ之レ即チ現行試験規則ナリ夫レ此規則タルヤ單ニ學識上ノ試験ヲおスニ止リ候補者ノ財産身分及外額等ノ如何ハ勿論其資性才幹及外交官ニ必要ナル可カラサル交際的才幹、有無、如キハ全ク之

レヲ不同ニ白シ去レリ然レ此規則出テ、以テ其知識
上ノ試験ヲ執リスルノ道開ケタルハ兎ニ角外交官領
事官ノ任用上ニ置ケル一進歩ヲ以テ日ス可キモノニテ
之レヨリ迄未ダ無試験ニテ任用シタルニ比スレハ其完否決
シテ同日ノ論ニアラス然レ此右試験規則ニ引レセル考
シ備フルノミニテハ未ダ以テ外交官タルノ資格ノ充實シ
タルモノト謂フ可カラザルナリ蓋シ該試験規則ノ請求ス
ル所ハ候補者ガ法律的知識ヲ有シ特ニ國際法ノ原
理ヲ知り英佛獨逸中其ノ一ヲ解スルニテ凡ソ此等
ノ条件タル所謂學識上ノ資格ニシテ外交官ニ必要
欠リ可カラザルハ勿論外交官資格ノ骨髓トナル可キ
モノナレモ單ニ學識上ノ資格ノミニテハ未ダ肉モ無ク血
モナリ皮モナリ亦毛モナキモノナリ何ヲカ肉ト謂フヤ外交

官ニ要スル性質之レナリ何ヲカ血ト謂フヤ財產之レナリ
何ヲカ皮膚ト謂フ何ヲカ毛ト謂フヤ身分及外顔之レナリ
夫レ外交官ノ職タル平素任事ニ對スル自心ノ物質
的及精神的利益ヲ保護進歩スル一ツツツ自心ノ
威嚴ヲ伸張スルト同時ニ任事ヲシテ自心ニ對スル感
情ヲ良好ナラシメ又任事ノ事情ニ適応シテ常ニ其動
靜ヲ監視シ一躬事アルニ當リテハ任事ニ對シテ其
察シ之レヨリ本不政府ニ報スルト同時ニ千種ノ手段
ヲ用テ、其任事ノ勢力ヲ任事ニ對シテ及ボシ利ノ大ナル
モノハ益之レヲ大ニシ害ノ大ナルモノハ力ノ及ブ畏リ之レヲ小ニシ
更ニ進シテ之レヲ零ニシテ未ダ得可クシテ任事ノ意向ヲ變
轉セシメ禍ヲ轉シテ福トナスニテハ外交官タルモノハ勢カ深
謀機敏ノ士ナラザル可カラズ然レ此深謀機敏ノ外交

官ニシテ平素廣く任上流社会ニ出入シ要路ノ人トシテ勿
論學者新聞記者及実業家等ト交際リテ置ケル
アラズハ任上ノ事情ヲ洞察シ其去就ヲ豫察スルカ如キ
巧妙ナル術ヲ用テ其隙ヲ入ル所ニテ下ノ在外
使臣ハ亦訓示中ニ此任務ヲ實行スルハ勢極メテ廣ク
任上流ノ人ト交際シテ應酬笑ノ間ニ我ノ意ヲ
通シ彼ノ見ヲ探シ如カストアルハ閣下蓋シ茲ニ見ル所アリ
テナル可ク閣下、明敏卓見洵ニ感佩ノ至リ堪ヘス且ツ
閣下ハ此等ノ費用ニ充ツルメ特別ニ相当ノ金額ヲ
支給セラレ、亦恩召ナルハ卑官、亦モ賛歎致服スル所
ニシテ我々外交ノ前途望洋ノ歎ナキハ實ニ欣喜ノ至
リナリ

然レ氏茲ニ閣下ノ一考ヲ規シ吾キ儀ハ婦人が交際ノ

主人公ナル政務ヲ於テ我日本人ガ興味アル交際ヲ為
スハ隨分困難ナルノ一事之ニテ此ヲ以テ雄才大略
深謀機敏ノ士ニ交際ニ要スル諸般ノ費用ヲ支給ス
ルモ此人ニシテ若シ交際的ノ才能ト政務的交際ノ経
験ト有セザレバ亦タ此政務ノ紳士ナラサル以上ニ決シテ
其目的ヲ達スルハ難ハルナリ蓋シ廣ク人ニ接シる者
要路ノ士ニ交リ其教養ヲ信ヲ得ル、結果ヲ收メント
欲セハ必スヤ先ツ政務流ノ交際術ヲ知了セサル可カラズ
然ラザレバ如何ニ徳リノ君子ナルモ如何ナル東洋流ノ英
勇豪傑ナルモ一年又ハ二年、短日月ヲ以テ交リテ子ヲス
ルハ能ハス良シヤ交リテ子ヲスルハ得タリトスルモ決シテ閣下
ノ所謂「應酬笑」間ニ我ノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ探止ガ
如キ深遠微妙ノ術ヲ用テ其ハ可シ何トナレバ此事

タル政治的交際社会、事情に融通シ政治的交際、
手段を法ヲ知得シ出入進退ノ一舉一動、淡々應對
ノ片言隻語、微ニ至ル直其度ヲ得又ヨシテ先づ我ニ
對スル好感情ヲ助長セシムル能力ヲ有シ且ツ八面應心
妙操縱自在ナル人ニテラザレハ之ヲ實リスルヲ難キ巧
妙ナル交際ノ秘訣ナレハナリ
要スルニ交際ニ二要件アリ曰ク交際術曰ク交際費之
レナリ交際術ハ本ナリ交際費ハ末ナリ前者ハ体ナリ後
者ハ用ナリ体用を待テ相牽ヒ此ヲテ其効用ヲ顯ハシ
其結果ヲ收ムルヲ得ルナリ此ヲ以テ我々外交官ニシテ若
政治的交際術ニ拙ナレバ終令十萬百萬ノ交際費を支
払ケルモ交際ヲ生スル結果、大ナラント決シテ望ム可
カラカルナリ

日本現在、外交官ハ果シテ交際ニ巧ナルヤ得テ拙ナルヤ
例外ハ暫ク措キテ論ゼバ一般ニ之ヲ評セバ巧ナリト言ハシヨリ
モ寧ロ拙ナリト言ハシル可カラス元來日本人ハ交際上、素
養皇マテ少ナリ且ツ政治的風俗慣習ノ異ナル國ニ生レ
シタルモノナルヲ以テ政治的交際ニ極メテ拙ナリ然レモ是レ
決シテ怪ラニ足ラス若シ政治人ヨシテ日本純粹ノ交際社
会ニ入ラシメハ我々日本人が政治的交際社会ニ於ケルヨリ為
拙等奇異ノ觀ヲ呈ス可シ然レモ字内、形勢ヲ察ス
ルニ今日我々ノ外交官タルモノハ其政治的於テハ交際ニ拙ナ
ルハ自然ノ結果ナリトシテ之ヲ放擲ス可キノ秋ニアラス日本
人果シテ徹頭徹尾自玉ノ風俗慣習ヲ保シシテ邦人
土耳其人、如リ吾界中何レモ自玉ノ風俗慣習
ヲ維持スルモノナリトセハ之レ亦一個ノ主義トシテ之ヲ目スリ

得可シト雖此既ニ日本純粋ノ衣服ヲ捨テ代フルニ洋
服ヲシテ日本食ニ代フルニ洋食ヲシテスル以上ハ衣服ノ
着様モ食事ノ仕様モ亦改メ流ナラサル可カラス又既ニ
改メノ立寄場裡ニ出入スル以上ハ其出入進退應對モ亦
改メ流ナラサル可カラス日本未ダ作道感具不潔ヲ古男
普及セシムル域ニ達セサル上ハ日本外交官ハ少ナク凡
ハ熟達セサル可カラズ服装起テ亦初作進退應對改
メ人ノ加リ且ツ其不ノ土語カ若ク佛語(但シ佛語ノミテハ未
不十分ナリ)ヲ談スルヲ得テ此ノ外交界ニ容レル可シ
然レモ是レ單ニ其門ニ入りタルノミニテ未タ其室ニ入ラザルモノ
ナリ日本現在ノ外交官中ニ未タ此点ニ進ミ居ラサルモノ
アリテ而シテ其大多數ハ概テ此点ニ傳テ一躍此階級ヲ越
ヘ其室ニ入りタルモノ極メテ以テナキガ如シ然レモ未ダ室ニ入ラザルモノ

ハ閣下ノ所謂實際ヲ存スル能ハス實際存キニアラズンハ
閣下ノ所謂實際ヲ達至ノ間ニ我ノ意ヲ通シ彼ト見テ探ル
秘訣ヲ定メリスル能ハザルヲ如何ンヤ此ヲ以テ我外交官ノ
多數(即チ未ダ室ニ入ラザル人)ハ熱心鏡意實際社会ニ
関スル事項ヲ研究シ以テ其室ニ入ルノ道ヲ講ゼザル可カラズ
然ラバ則チ何ヲカ室ニ入ルト謂フヤ曰ク改メ人特ニ婦人
ヲ相手トシテ主秘儀ニ達スルヲ得操縦意ヲ此リナルト
之レナリ此事タル是々容易ナルカ如クシテ決シテ容易ナラス
又此事ノ如クシテ決シテ此事ナラス意ニ此事ナラザルノミ
ナラス其影響者スル処至マテ深リ其波及スル処極メテ廣
シ之レヲ極言スルハ外交官技藝ノ大事ハ其之レヲ能クスルト
能クセザルトニ依リテ決シ得來我外交ノ振フト振ハザルトハ
我外交官ガ此道ニ長スルト長キルトニ依リテ其一班リ

判スルヲ得可シ何トナレハ此道ニ長スルニテラスンハ婦人が交
際此会ノ主人公ナル此女ニ於テ決シテ男子トモ亦交際ヲ厚
フスルヲ能ハズシテ到底閣下ノ所謂舊態未至ノ間ニ我
ノ意ヲ直シ彼ノ見ヲ探ルルヲ得テ望ム可カラサレナリ左レハ
我外交官ニシテ婦人ヲ執手トシ主動的ニ談話スルヲ得
探縦意ヲ如クナルノ区域ニ到達セハ之レ即チ我外交官技
倆一大進歩ノ吉兆ナリト謂フモ敢テ過言ニアラサル可ク小信ハ
實ニ具然ルヲ確信スルモノナリ

茲ニ所謂婦人ト主動的ニ談話スルヲ得ルトハ任玉ノ土
語若クハ英佛独語中一其ニ熟達スルリ之意未スルニアラ
スシテ談話上彼レヲ樂マシメ喜ハシムト同好ニ我ニ對スル
好感情ヲ惹起サンメ暗ク中ニ自然我レヲ敬重ニ篤信
セシムルノ能力アルヲ謂フ然レハ是レ口ニ之レヲ言フ可クシテ之レヲ

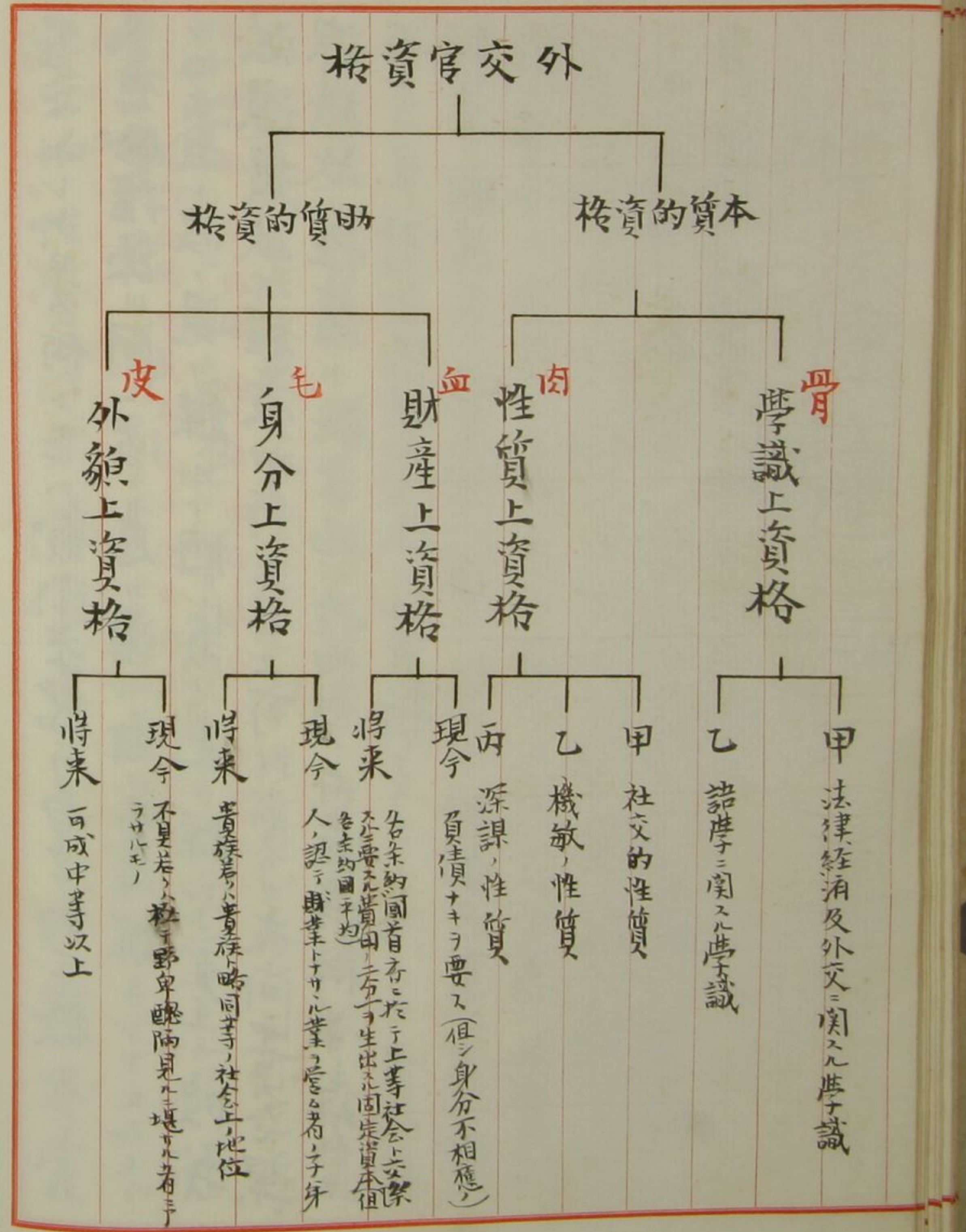
実行スルハ政務人ト雖モ難シトスル処況ンヤ政務ノ權留
熟セザル我日本人ニ於テヨヤ蓋シ快談歡話以テ彼レ
ヲシテ時ノ秘ルヲ知ラシメガラント欲セハ其談話ハ彼ノ嗜
好ニ投セザル可カラズ彼ノ嗜好ニ投セント欲セハ先ツ彼ノ
嗜好如何ヲ知ラサル可カラズ而シテ各人ノ嗜好多ク女差
異ナキニアラサレモ音楽繪画詩歌演劇オペラ小説舞
踊等ハ男廿ヲ許セズ政務人ハ一般ニ之ヲ嗜好シテ以テ彼
ノ嗜好ニ投セント欲セハ先ツ彼ノ嗜好ヲ探リテ以テ我嗜好
好トナサレハ可カラズ即チ多少音楽繪画及文學ニ関ス
ル志操ヲ有セザル可カラズ舞踊躍ラザル可カラズ演劇
見ザル可カラズ著名ノ小説其大体ヲ知ラザル可カラズ旅
行亦亦みザル可カラズ又日々新聞ヲ閱讀スルニ當リテモ決
シテ單ニ其要旨ナル部分即チ政治經濟法律若クハ官

中、事ノミナラス、交際社会ニ於テ人、決頭ニ上ル奇ノ性
質ノ帯有スル也、事ハ亦之ヲ探シ置カサレ可カラス、然ラ
サレハ交際社会ニ臨ミタル際、談話ニ好材料ナシ談話ノ
好材料ナケレハ談話ニ執リテ人ヲ棄マシムルニ能ハス、後テ
暗々、中ニ我ニ致ス、尊信セシムル、機会ヲ得ル、然ラス
又厚シ、交際スル、其レヲ製出スルニ能ク、左ニ云、所謂
婦人ヲ好子トシテ、自動的ニ談話ヲナシ、操縦意、如クナル
ノ人ニシテ、茲ニ、婉メテ、家族内、食事及榮話、招待ヲ
受ク、可リ、家族内舞踏会又ハ、其レ若クハ、オペラ、校敷
等ノ、案内ヲモ受リ、可シ、夫レ如クシテ、婉メテ、其味ニ、交
際スルニ、早可シ、談話、間ニ、我ノ、意ヲ、通シ、彼レノ、意ヲ、探
ルハ、即ケ、此ノ、事、早ニ、仕ル、官廷ヲ、正、禮讓、的
ノ、舞踏会、若クハ、食事、案内ヲ、受ケ、又ハ、此ノ、要、致、

人ヲ、儀式的、大、夜会ニ、招待セラシ、其他、云々、社会ニ
臨席スル、等ハ、何人モ、其レ、他、何人ハ、出来、可キ、又、其レ
可カラサル、事ニシテ、凡ソ、此等、社会タル、者、任、其、好、シ、ア、リ、テ、ハ
人ヲ、知ル、機会ヲ、興フ、利便アル、ニシテ、更ニ、進、ン、テ、厚
ク、交際スル、能力ナク、ハ、外交官、最終、目的、達スル
上ニ、其、効、用、極メ、テ、微々、タル、モノ、ナリ
交際的、才能、外交官ニ、必要ナル、其レ、如ク、然リト、モ、其
小、友ハ、決シテ、社交的、性質ヲ、具備スル、モノ、他、ノ、才能
夢、藝、ニ、於、テ、欠ル、所アル、モ、外交官、タル、ニ、美、支、ナシト、思
惟スル、モノ、ニ、ア、ラ、ス、シテ、早ニ、交際的、才能ハ、外交官、ノ、資
格、中、尤モ、重要、欠リ、可カラサル、モノナル、一、リ、論、述、シ、タル、ニ、過
キ、ス、然ラ、ハ、即ケ、元素、外交官ニ、ハ、何ナル、資格、ヲ、必要ト
スルヤ、曰ク、夢、識、上、資格、曰ク、性質上、資格、曰ク、財産

上、資格曰、外額上、資格曰、身分上、資格之レナリ
學識上及性質上、資格ハ外交官、本質ニ関スルモノニ
シテ財産上外額上及身分上、資格ハ其助質ニ関スルモノ
ナリ。助質ニ関スルモノハ止ムナクハ之ヲ欠クテ早ヘシトモ
本質ニ関スルモノハ如何ナク場合ニ於テモ決シテ之ヲ欠クテ
厚カルモノナリトス。何ヲカ外交官學識上ノ資格ト謂フヤ
法律ニ関スル學識ニ家經濟ニ関スル學識外外交歴史、
関スル學識及諸事ニ関スル學識之レナリ。何ヲカ外交官
性質上、資格ト謂フヤ曰、深謀、性質、機敏、性質
及社交的、性質之レナリ。社交的、性質ガ如何ニ外交官
ニ必要ナルヤハ既ニ前述、如何ニ外交官ノ外交官タル所以ハ
實ニ此特性ノ端フルニアリトモ深謀機敏ナルニアラカレハ
社交的、性質ハ少シ、價值ナキ、ミナラス。時ニ或ハ及テ害

アルトナシトセス。何トナレハ我レト交際シ有子フセント欲スルモノハ
又應ニ我レ至、問ニ彼、意ヲ通シ我ノ意ヲ探ラントスルモノ
トシテ我レ彼、見ヲ探ルト彼、我ノ見ヲ探ルトハ全ク彼、我
深謀機敏、程度如何ニ存ス可ケレトナリ。之レヲ要スルニ深
謀機敏、性質ト社交的、性質ハ二者其何レヲモ欠リ
可カラサル。外交官性質上、資格ナリ
何ヲカ財産上、資格ト謂ヒ何ヲカ外額上及身分上ノ資
格ト謂フヤハ便宜、為メ之レヲ才ニ端才一章外交官
任用、部ニ於テ詳論ス可キヲ以テ茲ニ之ヲ説述セサル可
シ次ニ閱覽、便ニ供スルメ外交官、資格ヲ因辭シ
自ニ達シテ外交官、任用法ヲ論セン



第二篇

第一章

外交官ノ任用

外交官ハ如何ナル資格ヲ具備セザル可カラサルヤハ前章既ニ之レヲ要論セリ然リ而シテ外交官ノ任用ノ標準ハ此資格ヲ具備スルモノヲ採用スルヲ以テ換言スルハ外交官トシテ採用セザル可キモノハ法律經濟外交及諸學ニ関スル學識アリテ社交的ノ才略ト深謀機敏ノ性質ヲ有シ且ツ相當ノ財産アリテ身分正シク風采宜シキモノナラサル可カラス然レモ是レ其完全然最上ノモノニシテ特ニ今日我々ノ有様ニテハ口ニ之レヲ言フヲ得可キモ實際此ノ如ク完全ナル人ヲ得ルハ實ニ至難ナリト謂ハサル可カラス即チ學識アレモ機敏ナラサルモノアリ深謀ノ性質ヲ有スレモ社交的ノ

才能ヲ有セサルモノアリ或ハ社交的ノ才能ヲ有シ機敏且深
謀ナレモ機敏十分ナラサルモノアリ或ハ機敏アリ社交的ノ才
能アリ機敏且深謀ナレモ財産ナリ身分賤シク又ハ外顔
野卑醜陋ナルモノモアリ故ニ今日我ニ於テ若シ前題ノ如
キ完全無欠ナルモノヲ得ント欲セハ綜合數百數千ノ候補
者アリト我ニ恐クハ一人ノ及第者ヲ見ル能ハサルノ結
果ニ陥ラシモ計ル可カラズ今眼ヲ轉ジテ政界各派ノ多數
ニ於ケル有様ヲ察スルニ前題ノ資格ノ比較的完全ニ具
備スル者ヲ得ルノ大ニ容易ナルガ如シ河トナレハ政界諸派
ニ於テハ概ネ財産ヲ有スル貴族若クハ社交上殆ント貴
族ニ比敵スル財産家中ヨリ外交官ノ擢拔スルニ通例
ナルヲ以テナリ而シテ貴族ナルモノハ其容貌ノ美醜ニ関ハ
ラズ多クハ何處トナリ人品風采ノ宜シキ処アリ且ツ社交

的ノ才能ニ至リテハ之ヲ有セサルモノ殆ント無シ且政
界諸派ノ風俗慣習ハ古人ノ如ク大同小異ナレハ
社交的ノ事ニ至リテハ學ニ才能アルノミナラス別ニ
之ヲ養育セザルモノ自然ニ養育シ居リ且貴族ハ
之概ヲ見、時代ノ進歩ノ養育ヲ受ケ外交通達即
チ外交官ニ十分ニ通達シ居ルヲ以テ政界ニ於テハ貴
族若クハ政同様ノ社交上ノ地位ヲ占ムルモノ、中ヨリ
外交官ニ當スル者機敏及性質其ノ具備スルモノノ擢
拔スレバ即チ事足ル次分ナルヲ以テ外交官擢拔上
ノ難易ハ我ニ現狀ト決シテ同一ノ論ニアラザルナリ若
シ我ニ我ニ貴族ニシテ果シテ我ニ若クハ棟上貴族ノ
如クハ外交官ヲ貴族中ヨリ擢拔スルノ方針ヲ執ル
ヲ得可シト我ニ日本ノ貴族ニ其貴族ナルガ故ニ政

此外交上、事情、通曉ニシテ尤ルニテラス、併決ニ通達
シテルニモアラス、又其財産トテモ日本ニ於テコソ富貴ナル
レ政外冬小、首行ニテ其ト、上流社会ト對等ト、空想
ヲ為シ得ル程ノモノ、其數極ナリト少ナル可シ(例ハ某
伯爵、日本貴族、先ヅ富貴ナル一人ナル可シ、向ニ先年
附也、納存、駐別中、隨公奮奮ニテ、毎年數萬金、
坊出シ、由ニ家扶家令、額ハ十ナル、般リ、寧セタリト、洋
利アリタル程ニシテ、口ニ至ル、其伯爵、主、歸、如、感、心
情ヲ上流社会ニ送シタリト、長氏、仲ニ、真、上流社会ニト
對等、對等ト、生、汰、リ、ナ、タ、リ、等、ト、事、ハ、思、ハ、モ、寧、ラ、ズ、ト
云フ)只、我、ト、貴族ガ士族、平民ト異ナル、且、日本、
内ニ於ケル、平均上士族、平民、ヨリ、富貴、家、ニシテ、多、少、士族
平民、ヨリ、風采、宜、シ、リ、且、向、ト、云、ト、男、ト、云、フ、荷、書、
ノ、下、

止マレリ、左ニ、今日、日本、ニ、於、テ、ハ、貴族、中、ヨリ、外交
官、ノ、撰、拔、ス、ル、方、針、遺、憾、ナ、カ、ラ、ズ、分、之、レ、テ、室、内
ス、ル、一、端、ハ、カ、ル、可、シ、此、ヲ、以、テ、外交官、撰、拔、ノ、区、域、ハ、勢
之、レ、ノ、廣、ク、テ、士族、平民、ニ、及、ボ、サ、ル、ヲ、得、ズ、而、シ、テ、士族
平民、ナル、モノ、多、數、ハ、其、財、産、平均上、華族、ノ、下、ニ、出
ル、一、遠、ク、政、外、貴族、ト、財、産、上、對、等、ナル、モノ、ニ、至、テ、ハ
全、ト、ヨ、リ、通、ス、ル、モ、極、メ、テ、少、數、ナル、可、シ、固、ヨリ、單、ニ、財、産
上、ノ、ミ、ヨリ、觀、望、ス、ル、ハ、日、本、人、如、何、ニ、負、ナ、リ、ト、長、氏、百
人、ニ、充、タ、サ、ル、外、交、官、ヲ、出、ス、一、難、カ、ラ、サ、ル、可、シ、ト、長、氏、如
何、ン、セ、ン、今日、ノ、日本、ニ、於、テ、ハ、學、ト、オ、ト、リ、兼、備、ス、ル、モノ、ハ
多、ク、富、貴、者、ニ、テ、ハ、負、者、ナル、ガ、故、ニ、此、多、ク、モ、ア、ラ、ズ、又、富、貴、者
中、ヨリ、外、交、官、ヲ、撰、拔、ス、ル、一、ハ、到、底、行、フ、可、カ、ラ、サ、ル、ノ
一、タ、リ、事情、既、ニ、如、此、ナル、ヲ、以、テ、今日、ノ、處、外交官、ノ、

出所ヲ主トシテ貴族ニ仰グヲ得ス又主トシテ富者ニ仰ク
ヲ得ス又貴族ト富者ノ兩者ヲ合シタルモノヨリモ之ヲ仰
クヲ得ス故ニ勢權拔ノ区域ヲ無制限トシ財産及
身分ノ制限ヲ設ケズ富者モ貧者モ華族モ士族モ
平民モ悉ク外交官權拔ノ区域ニ編入シ(但シ財産
上ニアリテハ不充實ニ負債アルモノ身分上ニアリテハ人ノ徳ヲ
賤業トナス者ノ子弟外顔上ニアリテハ極キ野卑醜陋
見ルニ堪ハサルモノヲ除リ)何人ニテモ外交官ニ必要ナル學識
及外交官ニ必要ナル性質ヲ備フルモノ即ケ本質的ハ
資格ニ於テ欠ク所ナラハ助質的(即ケ財産身分及
外顔)ノ資格ニ於テ望ム可キ所アルモノ之ヲ採用セザル
可カラス然ラハ則ケ其採用ノ手續ハ如何
外交官ニ必要ナル學識即ケ法律經濟外交及語學

ニ関スル試験ハ依リテ現行試験規則ニ據リテ試験ス可
ス而シテ此試験ニ及ボシタル者ヨリ直々ニ外交官ニ任用セス
假リ一ヶ月乃至二ヶ月間外務省ニ出頭セシメ數回官ツ
ク各局ニ配付シ又日々食糧ニ於テ高等官ト食食セシ
メ候補者が社交的ノ性質ト深潔機敏ノ性質ヨリ有ス
ルヤ否ヤ換言スレバ候補者ノ性質ハ外交官タルニ適ス
ルヤ否ヤリ審査員決定シテ各次官及局長右性質
試験期中一ニ二回自定ニ於テ候補者ヨリ延見シ以テ其
性質ヨリ査定スルノ便ニ供ス可シ勿論人ノ性質ナルモノハ
一二月試験セリトテ必スシモ其人ノ長所ト短所トヲ適當
ニ測方シ其人性質上ノ真價ヲ十分ニ知了スルコトヲ得ル
トハ斷言シ難シトモ免ク角性質モ試験セラサル可
カラサルモノナリトノ主義ヲ執リ其標準ヨリ定メ次官局長

ハ勿論大臣モ亦性質試験、事ニ注目シ次官及ら長官ノ音見ヲ徴シ大臣親ラ事實的ニ其採否ヲ決スルトトナリト之ヲ具無試験ニ放シスルニ比スルトハ其間非常ノ差異アルミナラス果シテ前題ノ方怯ニ據リ大臣之ヲ統督セハ大ナル誤謬ノ判定ヲナス一極ナリトシテ少カク可シ尤モ外務大臣ナルモノハ日夜不家ノ大業ヲ經營スルノ任ニ在ルモノナルヲ以テ右進外交官ノ擢拔ニ至ルハ親カラ之ヲ事實的ニ判定サレント望ムハ見少シク多キヲ求ムガ如キ觀ナキニアラサレモ元來外交官任用ノ適否タル將來帝皇外交振奮ノ支ル所國權消長ノ由リテ未ル所ナレハ地ノ不家ノ大業ト同シ亦是レ不家ノ大業ナレハ大臣ノ名實ノ彙備セル外交官候補者性質試験委員身長トナルノ第リ執ラレト切望ニ堪ヘカルナリ

如此規則ヲ設ケ外交官任用ノ方法及手續整理トスルモ多數有為ノ候補者ヲ得ルノ道ヲ講セザレバ此規則ヲ一停ノ空文ニ屬ス可シ現行外交官採用ノ手續ハ單ニ學識ノミニ於テ試験スルノ規定ナルニモ實ハラス候補者トシテ虫預スルモノ甚稀ナリト聞ク然ルモ若シ前題ノ方法ニ據リ更ニ性質上ノ試験ノ執行スルトトセバ性質試験ニ為分シタル候補者ハ一月乃至二月ノ日子ヲ備姓ニ供シタル未外交官ニ適セザル人物ト云フ明白ナル理由ニ據リテ採用セラレザル結果トナリ候補者ノ為メ如何ニ不面目ナレハ實際之ヲ為スニ忍ビザル可シ良ヤ忍ビテ之ヲ為ストトスルモ左アラヌダケ外交官ノ學科試験ニ隨フ六ヶ敷モノナルニ更ニ前題ノ方法ニ據リ性質試験ノ執行スルトトナサハ外交官ノ將來非常ニ有識ナルニアラズ

ハ何人モ先隱ト面目トシテ犧牲ニ供シテ外交官ノ候補者トシテ
志願スルモノナカル可ク後進有及シテハ多クハ之レ他ノ
官者若シテハ同ニ吸收セラル可キハ蓋シ疑ヲ容レサル所
ナリ此ヲ以テ此任用法ヲ宜クシテ才學兼備ノ多報
候補者ヲ得俊敏熟達ノ良外交官ヲ將來ニ收獲セ
ント欲セハ斯ル然鋭意外交官ノ待遇ニ一大改革ヲ加ヘ外
交官ヲ以テ遇セラル可クハ外交官ノ待遇良ケルハ良キ程
有望ノ候補者ヲ得ル一愈多ク待遇一善カラサレハ善カ
ラカル程俊敏熟達ノ良候補者ヲ得ル一愈多ク才學兼備ノ
ヲ得ルハ良候補者ヲ得ルト得ル又多ク得ルト才學兼備ノ
トハ一ニ外交官ノ待遇如何ニ異ナリ何人モ疑ヲ容レサル所
ナル可シ然リ而シテ才學兼備ノ候補者ヲ多報ノ外交官
ノ門ニ集ラシメテ中ヨリ最モ優等ナルモノヲ擢拔スルニア

ラガレハ良外交官トナルノ要素ヲ備フル人オクテ
スル能ハス者ニ決シテ至ルハ良外交官ノ擢拔スル一得ル
ト得カルトハ一フニ外交官ノ待遇ノ良否ニ關スル結果トナ
ルニ至ル然ラハ則チ外交官ノ如何ニ待遇セラル可カラサル
ヤハ同題ニ之レヲ次章ニ譲リ茲ニ外交ニ經歷ナキモノヲ
突然ニ公使ニ任命スルノ弊ニ對シテ聊カ卑見リ説述セン
高キニ昇ルニ必ス資キヨリスルハ苟モ事ヲ為スノ順序ナリ
故ニ書信及ハ外交官補ヨリ公使ニ書信及ハ順序ト擢
擢トシテ二者ヲ併用スルニ任命スルハ自然ノ道ナレバ今
日ニ至ル迄外交官トシテ出身モ順次其道ヲ經由シテ
公使ニ任セラレタルモノ實ニ稀ニシテ外交ニ要スル熟練ナク外
交上ニ少ク素養乏乏ニ經歷モナキ俗ニ所謂敏腕ノ士若
クハ貴公子ノ輩ヲ以テ公使ニ任命シタルトアリ貴公子

国より之使ニ適セサルニアラズ敏腕ノ士亦因より之使ニ必要ナリ然レ其費公子タル外交官ニ要スル準備ト且ツ外交上ノ経歴ト有スルモノナラサル可カラズ其所謂敏腕ノ士ナルモノハ外交官トシテ敏腕ノ人ナラサル可カラズ然リ而シテ外交官トシテ敏腕ナラレト欲セハ必スヤ外交官ニ要スル準備ト外交官ニ要スル性質ト外交官トシテ経歴ナカル可カラズ蓋シ今日ハ決シテ漠然ル常識的ノ方ノ中ニアラスシテ所謂常識ナルモノハ各社会ニ由リテ其標準実際異ナレリ故ニ外交官ハ外交官社会ノ常識リ有セサル可カラズ夫レ俗ニ所謂敏腕ナル者其意義極メテ廣シ医士トシテ敏腕ナルモノアリ大工トシテ敏腕ナルモノアリ財政家トシテ敏腕ナルモノアリ代官人トシテ敏腕ナルモノアリ地方法官トシテ敏腕ナルモノアリ亦陸海軍ノ将校トシテ敏腕ナルモノアリ

然レ此一医士トシテ敏腕ナルモノ必スシモ大工トシテ敏腕ナルニアラス財政家トシテ敏腕ナルモノ必スシモ代官人トシテ敏腕ナルニアラス又地方法官トシテ敏腕ナルモノ必スシモ陸海軍将校トシテ敏腕ナル者ハサラン向トナレハ敏腕トハ其道々其筋々トシテ懸ケテ御キナル一換言スレハ其道ノ達人ト云フトク意味スルモノニシテ暗昧漠然タル敏腕ノ士ナルモノハ決シテ之ニアル可キノ道理ナシ蓋シ敏腕ナルモノハ其道ヲ研究陳腐ノ結果ナレハ医士ノ敏腕家ハ医学ヲ依メ医術ヲ研究陳腐セハ医士中ニ之ヲ得可リ大工ノ敏腕家ハ家ヲ建ツルノ道ヲ學ビ且家ヲ建ツル一ニ經驗アル大工ニアル可キモノナリトセハ公使トシテ敏腕ナルモノハ亦之ヲ外交官中ニ求メサル可カラケル者ナリ然ルニ今日ニ至ル迄自然ノ法則ニ反シテ突然外交ニ

縁モ由来モキチ方面ニ在ル所謂敏腕ノ士ナルモノ若ク貴
公子ヲ輩ケテ一躍ニ使ニ任命セルハ實ニ其當リ得サル
ノ甚ニ中モト謂ハガハ可カラズ尤モ兔ニ南窓然公使ニ任
命セラル、任ノ人ハ何レ其性在ク平々凡々ナルニアラスレテ
機敏ナルカ膽力アルカ剛毅ナルカ恬愉ナルカ必ス通常
人ニ在リテタル点アル可キ付若シキ等、人ニシテ永ク其職
ニ従弟シテ経略ヲ積ムト久キニ至ラハ漸々敏腕ナルニ至ル
ヲ得可シト在ル多クハ二年三年又ハ僅カ四五年ノ後帰
邦シテ直々ニ他ノ官者ニ轉任スルニアラザレハ野ニ下ルハ
從來ノ通弊ナリ豈ニ歎セザル可ケンヤ或ク以テ如何ニ
英敏敏達ノ人ニシテモ其道ニ精通スルノ暇ナシ敏腕ノ
外交官ヲ得ント欲スト在ル豈之ヲ得可キノ道理ア
ランヤ帝ニ公使其人敏腕ナルヲ欲スガハノミナラス飛入公使

任用ノ弊タル後進ノ欲リ吐絶スルヲ以テ後進有為ノ
士ハ野ニ下リテ民業此社会ニ羽翼ヲ延サントスルニアラ
ズンハ志リテ他ノ官者ニ轉シタリ然リ而シテ新タニ下級
外交官トシテ出身スル者モ初キリ外交官ヲ以テ身ヲ
立テントノ志ヲ抱キテ尚陸海軍人タラント欲スル者ガ
終身力ヲ軍職ニ竭サントスルカ如キモノ欲ント之レナキガ
如ク其大ニ多數ノ名ヲ外交官ニ與リ其實三四十年
官費苗子ヲ為サントセルモノナルカ如シ其目的既ニ以
テ如シキヲ以テ在勤中吾苗子中研究スルヲモ帰朝
後已レ、出身セントスル官廳若クハ会社ニ必要ナルトシ
アラザレハ改次法律若クハ経商等ナルカ如シ改次法律
経商ノ事固キリ外交官ニ必要ナラザルニアラズ帰朝後
出身ノ官廳若クハ会社ノみメニ一事ヲ取調バルトモ

家ノ為ニ有益ナラサルコトアラズ膏ニ必要有益ナラサルコ
アラサルノミナラス以テ身ノ人ハ我ニ百政ノ制令ノ上ニ政務
ノ知識ヲ輸入シタルハ一ツ大ナル利用アリタルハ事ア可カラサル
事實ナリトモ在ル如何ンセン外交官ハ言ハ、縮臺トナリ
タルノ形跡アリテ以テ身ノ人ハ心中外交官ハ其目的ニアラ
サルヲ以テ日本ニ歸リテ後ハ殆ント全ク不用ニ爲ス可キ政
務外交上ニ関スル事項ヲ専心一意研究シ以テ他日
良外交官トナルノ準備計畫ヲ爲シタル者アル間カサルハ
實ニ自然ノ勢ナリ良シ時ニ有之タリトスルモ帰朝後
本國ノ受ケ如何ント云フニ法律上ノ議論ヲ爲シ巧ニ往
復文ヲ強ル者ヲ敏腕ナリト謂フカ如キ傾向アリテ政務
外交上ノ一ツ研究ニタルモ経緯文ニ批シテ法律上ノ議
論ヲ爲セルモノハ政羅巴一ツテ来ルト人間ガ馬鹿ニナリ

テ来ル様ダナゾトノ評ヲ受ルヲアル次第ナリ故ニ以テ身ノ
人ニシテ其法律ノ議論ヲおカシタルハ角ノ取シタル兆候
日本経緯文ノ下手ニナリタルハ政務ニ達シタルノ証跡
ニシテ是レ亦一ツ長所ナリト云フ一ツ發見セラレタル一
甚ク少ナキカ如シ之レヲ要スルニ飛入公使ナルモノハ如何
他ノ道ニ習ケテ敏腕ナルモ外交官トシテハ決シテ敏腕ナ
ル能ハサルノミナラス必ニ後進ノ跡ヲ吐絶シ有為ノ士ラシ
テ袖ヲ拂フテ外交社会ノ門ヲ去ラシメタリ公使敏
腕ナル能ハス屬僚有為ナラスンハ外交ノ弊ヲラサル決
シテ怪ムニ足ラサルナリ然レモ之レ決シテ公使ノ罪ニアラス
又屬僚ノ罪ニアラス實ニ飛入公使任官ノ結果ナリト謂
ハサル可カラズ以テ飛入公使任官ノ原則上決シテ之
レ可許ス可カラサルモノナリトモ在ル目下既ニ暹羅墨西

哥布哇、巴羅西等へ云使所派遣ノ所計畫ナリトノ一ナ
ルヲ以テ今日、有様ニテハ、勢外交官ニ無縁ノ人ニテモ採
用セラル可カラサルノ止ムヲ得サルヲアル可シト表氏其ノ撰
ヲみスニ、当リ決シテ、後、東ノ所謂、東洋流ノ豪傑ヲ撰バ、ス
外交官ニ要スル、學識ト性質トヲ比較的多分ニ有スル
人ヲ撰バル可キハ、希望ニ堪ヘサル存ニシテ、閣下ノ意ニ至シ
茲ニアルトハ、少官ノ疑ハサル存ナリ

第二章

外交官ノ待遇

吾外交官ヲ好シト欲セバ、外交官ヲ好遇セサル可カラズ
換言スレバ、吾外交官ヲ好シルニ、吾外交官ヲ好遇ス
ルニアリ、然ラハ、則チ外交官ノ待遇ノ標準、如何他ナシ、吾
外交官トナルノ資格ヲ有スル者、吾外交官トシテ、此
身セントスル心ヲ喚起セシメ、其一途外交官ノ職ヲ就キ
タル者、吾心一途、他ヲ顧ミズ、外交官ノ目的ヲ達スルニ
必要ナル、諾般ノ事、頃ヲ研究シテ、其、殘存ニ勉勵シ
轉、退、及、貯蓄、等、心ヲ傾クルトナカラシムルノ之レ
ナリ、此目的ヲ達スルニ、先ク外交官ノ地位ヲシテ、安全
ナラシメザル可カラズ、繼、今、其、地位、安全ナルモ、外交官ノ

官俸他受ラズシテ其地位以テ其学藝才能ニ
酬ユルコト也ラガレハ轉友退友俸ノ急出ヲ起ス者ナリト
謂フ可カラス故ニ外友友ノ俸高メ又特ニ外友友
ノ名譽ヲ大ナラシムル古法ヲ誨セザル可カラス然レテ友
俸高ク名譽大ナリトスルモ若シ俸給急カナラサレバ
之レ亦退友轉友俸ノ急出ヲ誘ハスルコトアルコトナラス
日弁ノ外友友ハ俸給急カナルコトアラズレバ外友友自給
ヲ達スルコト一大障礙ヲ来ス可シ故ニ俸給増加セザ
ル可カラス然レテ其増加タル外友友トシテノ生活ニ必要
ナルモノナレハ決シテ之ヲ貯蓄ニ供ス可キモノニアラズ
然レテ若シ奢侈ノ法ニ於テ欠クルコトアラバ人ヲシテ貯
蓄ノ急ヲ引起サシムル必ズ然レテ勢ナリ轉友又ハ退
友ノ急出ヲ有シ若シクハ貯蓄ニ心ヲ傾クル者コトシテ外

友友ノ職務ニ全カク専ラスモノ未ダ之レアラザルナリ
サレバ良外友友ヲ得ルノ由タル外友友ノ待遇ハ

第一 外友友ヲ終身友トナス

第二 友俸ヲ高メ俸給ヲ増ス

第三 十年以上勤続ノ外友友ニシテ内五條

以上ニ使ハレシメテ若シテ年滿ニ到ル

第四 特ニ外友友ノ恩給名ヲ制定ス

答即チ之レナリ以テ各次ニ付卑見ノ要領ヲ略述
セン

第一 外友友ヲ終身友トナス

現今ノ制ニ於テハ各任所ノ外友友ノ期限ハ三年ニ
シテ期滿ツレバ其友ヲ免ズルノ規程ナシ外友
友ヲ待遇スルノ法ニアラス且シテ之ヲ終身友トシ

以外交友ノ地位ヲ安んずラシム可シ

第二 官階ヲ高ク待遇シ増ス

甲 外交友(付使事友)官階及待遇

第一 官階ニ於テ由テ其古法ニ依リ任用セラレタル外交友ハ初任ハ高等友ニ等トス可シ之レ他ノ行政友初任ノ友等ニ比シ一見其権衡ヲ失スルガ如キ歟ト望ムト當テ外交友ニ要スル学識及性質ヲ兼備セシ幾十幾百ニ補若中ヲ真ニ將來有能ノ良外交友トナル可キ者ヲ採用セシト欲セバ此位ノ特別待遇ヲ與フルモ故テ可成ニアリサレ可シ(奥匈國外交友補友ニ上ノ地位ニ降シテ少シ付使事友ニシテ我國ノ高等友ニ等ノ待遇ナリ)

又先練熟達ハ特命全權公使ハ友制上初任

友トナス可シ現制ニ於テモ初任友待遇ノ特命全權公使アリ是レ可ノ例外ナリ以テ目ス可キモノニシテ官制上ハ初任友ニ非サルナリ即チ初任友待遇ト稱スルモ強シト有ル者實ニシテ其待遇如キハ依然高等友ニ等ノ公使ニ等ラズ公使我國將ト方國ノ別ニ加ハラントスルノ際ナレバ欧米諸大國友及那魯ハ派遣ス可キ公使ニ其名ニ於テシテ未ダ大使タラサルモ其実際ニ於テハ歐洲諸國ニ於テ大使ヲ稱シ程ノ要ナリ以テ学識及經驗アリ若シ稱授シ其待遇ヲモ高クシテ一層尊重セシメサル可カラズ是レ外交友ノ制ノ上ニ改訂ヲ加ヘ特命全權公使ハ高等友ニ等ト止メス友制上初任友先7カ得セシメ其待遇ニ於テモ高等友ニ等ノ特命

全權の使より多額を給ふるに改正の名実兼備、親任の特命を権公使の以て最上外交官におせしむる所以なり

又別表記載の通り、公使館多事官を置キ其待遇を勅任とし、其官階を高等官二階とし一等書記官の高等官三階、二等書記官の高等官四階、三等書記官の高等官補ハ二階トセリ

曰外交官の制に於て、多事官の官を置カレシカ現制に於て之を廢シタルは如何なる理由を以テ之をナレヤ之を知らズ又各國の制ハ巨々（白耳及羅馬尼ヤの多事官を以て）之を置キ見テ以テ之ハ十数年勤続ノ老練敏腕ナル書記官を以テ公使を遣ふる人ナルを公使ノ地位に空席ナキ場合若シ

ク其老練書記官一國ヲ代表セシメ指立ノ働キヲ爲サシムル事元來公使ノ良補助官タラシムルノ極ナテ適當ナル場合爲ラシ之を以テ多事官を以テ之を可トス又多事官の官を設ケ付多額を可キトアリ即チ各國の公使館書記官中ニ其歳考後ノ考少ナカラズ又公使館多事官ノ職制ヲ有スル國ノ外交官中ニ其四五歳ニシテ多事官ノ職に在ル者アリ然ルニ若シ本邦ノ制ノ如ク書記官ト公使ト同シクハ官階ナキ中ハ公使を以テサレ以上ノ書記官を止マラサル可カラズ故ニ老練老達ノ書記官を以テ其官階五十ニ近ク以テ髪半白ナラントスルニ至ラシムル（書記官ノ官階ニ待遇上仰リ重キヲ置カシメ又用ニ由リテ給報ヲ設ケス例ハ一揆米蘭臨

等ノ如シト仕業書記友ト社式ノ節若シクハ社交上
任リ同フシ又系事友ノ友名ヲ有スル者ヲ對シテ於
一歩ヲ讓ラサル可カラズ常テ吾國ヲ在勤セシ美
國大使殿ノ書記友某氏ハ半白ノ老人ナリシガ
於テ他國大使殿多事友(大使殿多事友中)ニ
年路為仕ナル者アリ例ハ在埃指造大使殿付現
多事友ハ卅三歳ニシテ現在ノ友ニ任セラレタリノ下
列シタリトナリアリ然レテ數年ヲ理テ特命を權云
使ノ待遇ヲ受クルトナリ茲ニ始テ他國多事
友ノ上ニ列シタリト云フ夫レ余於ノ長幼席順
ノ高下塔ハ固テ深ク心ヲ切カスニ思ハサルハ勿論
ニシテ其人ノ實質的價值コソ人ノ敬重ヲ上下ス
ルノ標準ナル可キヲ以テ其未リ迄ハスニテ其存リ

増大サル可カラサルハ固テ論勿シト余モ退テ俗界
ヲ交際社層ノ密接ヲ願ヒシハ人為的階級ノ効
用モ亦決シテ少ナルヲ示サレナリ
以上諸般ノ理由アルヲ以テ十數年同種層ヲ棲ミ
タル先練熟達ノ書記友ニシテ未タ大使ニ任セラレハ
機層ヲ得サル者ヲ結ワシ多事友ノ友ヲ以テスルハ
當テ至者ノ待遇ナレトナラス而外交友奨勵ノ
主趣ニモ適シラス可シト信ス是レ大使殿多事
友ナルモ身設ケントモ好以ナリ
外交友々皆儕類表即チ左ノ如シ
外務省書記友
官場儕類ヲモ含記ス
多事友

乙 外務省高等官の取扱

外交官の待遇ニ準セザル可カラザルモノハ外務省高等
官ナリトス蓋し存者ノ高等官ナリテ海外ノ事情
通曉セシメ又海外在勤官ナリテ存者ノ事情
カナラシキルヲ欲ス存者ノ高等官ト海外在勤者
ヲ轉換交代セシメザル可カラズ既ニ轉換交代ヲ爲サ
シタルト存者ノ高等官ト外交官トノ取扱係
均一ニスルリ蓋シトス故ニヤ者ハ外交官ノ好遇
ニルト同時ニ外務省の高等官ノ取扱係改
正シテ表申シ記載ノ如ク其取扱係
高等官ノ取扱係親任官タルナリ行政通
局長ハ高等官一等ノ昇ルナリ然レ
テトシテ將來外務省の高等官
翻譯官ヲ除ク外交官

採用規則に據リテ 任用ニ決シテ 突然他者ノ高等
官ニ任ズ 任用セザルナリトス 可シ何トナレハ 外務省
高等官ト外交官トノ 其勤務ノ地ヲ 内外ノ区別
アリ且其待遇自倅ニ 同クシテ 且此二者ハ
亦通ノ如ク 必要ノ應ニ 何時ナリテ 交代ヲ爲シ得ル
モノナリ 其可カラザルモノナリ

外務省の高等官の取扱係既ニ外交官ト同ジク 其
任用ノ方法モ亦外交官ノ均ニキ以上ニ 其待遇モ亦
外交官ト同シカレバ 勿論ナリ然レテ 亦外務省
高等官ノ待遇ヲ 外交官ト同クシテ 亦其表申
記載ノ如ク 其取扱係ノ 待遇先
各者ノ取扱係トナルモノナリ 外務省ノ及ホサレ
下トナシ 可カラズ 換テスニ 外務省ノ例ナリ

罷カ其可カラズ尤モ外務省友制ヲ亦証券中記載ノ
如ク改正セ一見他省トノ均等シクカ如キ款十キニモ
アラサレモ之モ外務省ノ均等ナルモノ亦屬此ニ先好
外支費ト其存留ヲ回フス可キモノナルヲ以テ其長官
侍從ヲ均フニセサル可カラザレ^{自然}的^実態^船必^要
極^大ニ他省トノ均等ト移スル^好謂^情實^的外^支費^的
ノ必要ナルモノト決シテ可^得ニテラサレテ外務省ノ友
制ヲ各省友制同例ノ例外トガサレテ可カラザレ
由^十分^ノ存^在トシテ久^シ況^ニヤ^情事^外務^省ノ^均等^支費^的
ナルモノ外支費ト同一ノ方法ニ據リテ採用セラレ可キモノ
ナリトモ其待遇モ亦外支費ニ準シ其長官侍從等
外支費ト均等スルハ實ニ自然ノ結果ナリト指ハサレ可
カラズサレ^然外^務省^ノ均^等支^費ト^ノ友^制
五午四
二午四
午四

侍從ヲ盡一ニシ且ツ外務大臣・海軍大臣及秘書長ニ
少ナクトモ左ノ各款ヲ裁減侍從トシテ支給ス可シ

外務大臣 五午四
次 友 二午四
秘書長 午四

丙 進取最下期限(進取併年)

前記表中記載ノ通り進取併年ヲ改正シ六
等ヨリ五等ニ、五等ヨリ四等ニ、四等ヨリ三等ニ、
最下期限ヲ各三年トシ三等ヨリ二等ヨリ昇ルル
四年、二等ヨリ一等ヨリ三年一等ヨリ就任者ノ昇ルル
四年ト假令セテ而シテ進取併年ノ順序ハ年數ノ滿チタル

同格支中より年数一月数口数相同しハ毎券ト扱
權トナリ照シテ之ヲ乞ム但シ六等より五等五等より
四等四等より三等三等より二等二等より一等一等
照シ割戻年数七分扱權五分三等より二等より
一等より扱權之重キヲ照キ年数五分扱權七分
二等より一等より照シ年数之重キヲ照キ年数七分
扱權五分又一等より照シ年数之重キヲ照キ年数五分
扱權一分照シ年数之重キヲ照キ年数五分扱權一分

今此進取最下期限ノ據リ進取行フ所ハ
期限之使ニ昇ル云
少クトモ 十三年
特命之據ニ昇ル云
少クトモ 十六年
照シ年数之重キヲ照キ昇ル云
少クトモ 廿年
在残セサル可カラズ換之スレハ少クトモ此期限同

外交支トシテ 種厚ノ據ニタル者ナラザル可カラズ(換
句圖ニ於テハ外交支補ヨリ之使ニ昇ル云 凡ソ十六年
乃至廿年ヲ要ス)

又本者ノ爲長ト外交支ヨリ之重キヲ換交代セシム
ルハ亦照シ如ク其ノ重キヲ見ル可トモ云々之使ニ付セ
レハ若ク少ナクトモ進取最下期限ノ年数即チ
期限之使トナル者ハ少ナクトモ二年半ノ爲長一等ノ
特命之據ニ使トナル者ハ少ナクトモ八年又照シ
長ノ特命之據ニ使トナル者ハ少ナクトモ十年外
外交トシテ(照事長トシテニテ) 海外在勤ヲ爲シタ
ルモノナラザル可カラズ

丁年於滿期(退殘ノ期)
又前記ノ表ニ記載セル如ク年於滿期ノ制ヲ定メ

満卅五歳ニシテ 六等ニ止ル者
 満四十歳ニシテ 五等ニ止ル者
 満四十歳ニシテ 四等ニ止ル者
 満五十歳ニシテ 三等ニ止ル者
 満五十歳ニシテ 二等ニ止ル者
 満六十歳ニシテ 一等ニ止ル者
 親任及、公使及治事ニシテ六十歳ニ超ハル
 者（美園ニ於テハ公使ハ七十歳ヲ以テ滿期
 トナスト出ク然レモ邦人ハ概シテ歐洲人トシテ英人
 等ニ比シテハ体力衰フルト早キカ如シ故ニ假リテ六
 十五歳トシテメタルナリ 記ニテ以テ識者ノ訂正ヲ仰ク
 二年於滿期ノ故ヲ以テ退職ヲ命ズルトトス可シ元
 本外使及及外務省ニ於テ是レモハ亦章ニ於テ

速ベタルカ如ク 學識及性質ノ試験ヲ受ケ數十數
 百ノ候補者中ヨリ選抜シタルモノナリトセバ皆非凡ノ
 士ニアラサルハナカレバ可シト然モ 強壯ノ英雄必スシモ今
 日ノ傑才ニアラサルカ如ク 人々ノ体力能力ハ時々或ハ
 余ラニ衰セサルモ 距ラヌ又 試験委員如何ニ綿密周
 到 ナリトスルモ（特ニ性質試験ニ於テハ）時々或ハ誤
 認ナシトモ 新官シ難カル可シモ 如キ場合ニ若シ案
 於滿期ノ制ナクハ 外使及外務省ノ身及ナルノ故ヲ以テ
 止ムヲ得ヌ 速任ニアラサル者ヲ以テ 其殘ニアラシメ外
 使事務ノ活節ヲ欠クノミナラス 爲メニ 有爲後進
 ノ路ヲ塞クニ至ル可シ 是レニ 二年於滿期ノ制ヲ必要ト
 スル所ナリ

成 外使及及公使駐屯記生在勤俸

歐洲諸國ノ外交友ニ財產ヲ有スルヲ以テ通例トシ
決シテ傳授ノ款リテ之ノ生活ヲ爲ムモノアラサルヲ
以テ我國ノ外交友傳授ノ標準ハ列強諸國ノ例ニ
據ルヲ以テ即チ我國ノ外交友傳授ヲ定ムトスルニ
當リ知ルヲ要スルモノ各國ノ外交友ガ政府ヨリ幾千
ト幾千ト幾千ト幾千トアリシテ各國ノ外交友ニ幾千ト
比スルヤニアリ即チ日本ノ外交友ヨリシテ各國ノ外交友ト
略同極ノ生活ヲ爲サシメ取對等ノ支拂ヲ爲サシメト
能ク凡ソ幾千ノ幾千ト幾千ト幾千ト可キヤナリ今各國駐
劄各國ニ使ノ生活ノ有極ヲ要スルニ彼我決シテ
同ノ論ニアラス而シテ書記友及外交友補ノ如キニ
至リテ彼我ノ懸隔特々大ナリ何トナシ書記友及交
友補ニ其傳授ノ外交友補ニ各額南モアリニ於テコソ

ニ使ト愛シ且其私産能ク上等社層ノ生活ヲ爲ム
ニ好リ凡人多クレハナリ

今吾界ニ於テ歐洲諸大國ハ使ヲ派遣スル國其
數頗ル多シトモ其國勢カ一ツトシテ我帝國ニ比敵
スルモノアラス故ニ現以テ日本ヲ代表スルニ中國ノ公
使先若繼令大使ニ及バザルモ各國ニ使ト讓リ
サレノ生計ヲ爲シ先ノ各國ニ使ト凡ソ對等ノ支拂
ヲ爲シ得ル費用ヲ仰カサル可カラズ然レモ各國ノ
列強十之九ト幾千ト仰リテ一ニ實際行ヒ難カルヲ
キヲ以テ先ノ第一着ニ使トシテ之ヲ當リ凡ソ別
表ニ記載ノ程及返増強スルハ實ニ目前ニ急務
ナリト信ス

外交友及公使館書記生在勤傳ヲ假定スルノ左ノ如シ

外交官及公使館書記生在勤俸

	特命全權公使	辦理公使	代理公使	臨時代理公使	參事官	一等書記官	二等書記官	三等書記官	外交官補	書記生
英露米佛	親任 一、一〇〇〇 高 一、〇五〇			五二五〇	四〇〇〇	三五〇〇	三二〇〇	三〇〇〇	二五〇〇	一五〇〇
奧	親任 一、〇五〇 高 一、〇〇〇			五〇〇〇	三八五〇	三三五〇	三一〇〇	二九〇〇	二四〇〇	一四〇〇
獨	親任 一、〇〇〇 高 九五〇			四七五〇	三六〇〇	三一五〇	二九五〇	二八〇〇	二三〇〇	一三〇〇
伊	親任 九〇〇 高 八五〇			四二五〇	三二〇〇	二八〇〇	二六〇〇	二四五〇	二〇〇〇	一〇〇〇
蘭	親任 八〇〇 高 七五〇	七〇〇〇	六五〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	二六五〇	二四五〇	二三五〇	一九〇〇	九五〇
清	親任 一、一〇〇 高 一、〇五〇			五二五〇	四〇〇〇	三五〇〇	三二〇〇	三〇〇〇	二五〇〇	一五〇〇
朝	親任 一、〇五〇 高 一、〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	四七五〇	三六〇〇	三一五〇	二九五〇	二八〇〇	二三〇〇	一三〇〇

右在勤俸貨幣單位 四 改米ハ金貨と銀
 支那朝鮮ハ銀貨と銀とナリ
 如シ

已 金貨携帶費

金貨携帶費ハ外交官ニ如何ナル標準ニ據リテ在勤
 俸ヲ増減スル可キヤ 現制ニ據レハ三等書記官及外
 交官補ハ銀貨携帶スルモ金貨携帶費ヲ受ケス
 二等書記官以上ハ夫ノ在勤俸ニ付テ一ツ麥クニシテ
 控レリ然レモ夫ノ在勤俸ニ付テ一ツ麥クニシテ在勤
 俸ノ内ニ充テルルナリ 此種金貨携帶費ハ在勤俸
 金貨携帶スルモ金貨携帶社屋ニ出サレノ金貨十
 リト云ハハ何カ力言ハヤ然レモ荷外金貨擴張
 シテ單ニ銀貨表面銀ノ對等ノ金貨ニシテ精

神の社会的ハ平等ナル以テ眞正ナル對待ノ交際
ヲ為スノ準備ヲ為サント欲セバ外交ニシテ事アル者其
等ノ字ト關ハラス事ヲ修ムルヲ携布セシメ又苟モ携
布シタル以上夫出入ノ交際ノ社會ヘ入ルベシ可カラズ
事ナラシム自由ニ交際ノ社會ヘ入ルベシ可キモ若シ
事アリテ之ヲ交際ノ社會ニ出サレバ夫ハ決シテ眞正ノ
交際ヲ為スべシ然レモ何トナシテ歐洲ノ如ク見レバ
奇異之レヲ大ニナキク以テ少シク修ムルト至ルハ
何人モ何故モ事ヲ交際ノ社會ニ出サレテ同ク其
初ニアリテ何トカ通辭ヲ設ケテ之ヲ修ムル可ク
可シト雖モ数年同數高又ハ數百回毎々通辭
ヲ用ヒ可クキモニアラス又總令毎回通辭ハ
其効ヲ羨シタルヤノ觀アリトスルモ人々ノ心中ニ此
事

交際ノ社會ヘ出サレテ事實ヨリ收納シテ日本人ノ依
然ガ日本人ナリトシテ考證ノ可シ既ニ此考證ニ至ル
上其其人ノ我レニ對シテ有スル好感ニ決シテ全然
タルモノニアラスレテ彼レ解分十分ノ熟字ヲ有スルカ如キ
觀ヲ呈スルモ心中ニ必ズ我レヲ輕蔑スルノ傾向ヲ生シ
括ル可シ唯有極キ事交際ニ先レテ決シテ交際ノ目
的ヲ達スル能ハサルノミナラス交際ノ廣クハ無廣ク日本
人が其東方ノ契機ノ契機ニ至リテ契機ナルヤ否ヤハ問題ナシ
歐洲ノ如ク契機ト見ルモノ如シテ脱セサル下テ廣告
スルハ其契機ノ臨ム可シ若シ假リニ世人ノ評判人ノ心中事
ナゾモ其契機ヲ待ガス苟モ有テナリト信スルニ交際ノ社會
ヘハ單騎ヲ行奮ムル也席セントスルモ苟モナリトテ
訪問ニ至リテ以テ其契機ニ至ルカハ其契機ニ至リテ

有り十時以迄年踊十時以迄有翌日三時以迄有
以指身者アリテハ事路所勤路ノ何ハ一ニ
訪同ヲ為シ扱ハ扱層若クハ舞踏層等ハ臨席
スレバ決シテ舞キコアラスト余妻携テ若キアリテハ
屋ク之レニ参リ海外軍ノ兵境ニ在リテハ丹ナリ
兄弟ナク姉妹ナリ朋友ナク夫ハ外ニ扱ル可キ
若キ妻アリ夫ニ為メ罷キ役所ニアリテハ訪同扱
層ニアリテハ舞踏若キ扱ニアリテハオハラト其必
ニ扱シヨ扱ニ別ナリ外ニ扱ニ一ハ如何ニ世國ノ
精神ヲ以テ充タシ先我日我ノ人ニテハ情決ニ
忍ル能ハサルナリ可シ扱スレニ妻ヲ扱層ニ出ス
シテ夫携リ扱層ヲ入ストハ決シテ行フ可カラサル事
ナリ宇内周ヲ樹ワルモノ其数毎シト余ニ妻アリ

際社層ニ出サレ外交ナリ有スレ國ニテ其國勢
ノ衰達シテアルモノ多シ与那暹羅波斯土耳
其等ノ如キ即チ之レナリ夫レ扱層ノ扱層ニ扱
納ノ扱層ト相付クハ扱層ノ其完キヲ得ルモノナリ
然レハ現行規程ノ如ク扱層ニ在リテハ在勤傳
ノ扱層ノ一ヲ培テスレハ扱層ニ到テ扱層ヲ扱層ニ
出ス能ハズ扱層ノ扱層ニ扱層ノ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
目セラルモノ多シ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
友現ニ存在スレハ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
堪ハサルナリ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
取假定ノ在勤傳ヲ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
サルナリ又扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ
扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ扱層ニ

氏之しるし誤謬之見解之甚るるモノ、此の但し此等ノ
ノ誤謬之對して當り此等之伴フヲ禁スルノ精神ナリト
言ハ、亦亦何力言ハヤ然レ此等諸友ト能ク
コト此等之伴フ若クは復昔此後前如傳及船車
料ヲ給スル以上之と當り推テ前如傳及船車
者ヲ給サレモナリ夫レ之等書記書友外交友補
アリテ、在勤傳ハ勿論本傳之於テモ一二等書記友
ト著レシキ如速アルコト當リ外交友補ハ此ス如キ
考ハ、夢ニタモ然レサレハ自然ノ勢ニシテ到レ外交友
友仲間ノ一考ハ外交友補之現象ヲ以テ同セシム
若クハ、耳之を所ナリ、是レ外交友補ノ考ヲ以テ、此レ三等書
記友ナルガ好シ又ハ外交友補ナルガ為テ書友外交友
補ハ此レノ理由ナクナリ故ニ友ノ終極ヲ論セズ

苟モ外交友ニシテ當リ此等ハ推テ補スル考スル如キ
相者同ノ比例割合ヲ以テ書友推テ補サレテ
不完然ナカリ際々之レヲ交際社層ハ出スレテ
此レ極改正スル決シテ單ニ外形ヲ糺フノミナラズ
年ノ夫人ヲシテ歐洲交際社層ノ客地ヲ臨マシメ其
風俗慣習ヲ熟シテ、十年廿年若シクハ十年
後ニ社友上ニ投擲歐洲外交友ノ夫々者ヲ其
ニ使ノ夫人ヲ養成スル階梯ニシテ、此レ秩序
ノ種萬々種々タルニ使ノ夫人ハ交際上夫々
利便裨益ヲ與フルノミナラズ、後進外交友ノ夫人ヲ
誘導スル上ニ於テ尤モ必要ナル國家ノ重寶ナリト
謂ハカレ可カラズ、(英國外交友ノ練習長學智ノ部
ヲ以テ論ス可シ)

之レリ。要スルニ、外交者ニシテ、書ヲ携テ、事ニ赴ク者、在勤
侍ヲ倍テ、終久可シ。但シ、東洋地方へ派遣セラルル、欧州
外支支、多岐ハ、之レヲ以テ、在勤スル者、此ニシテ、百
度、尤モ、若ク、ナシト、ナリ、ナレバ、實際、社屋ヲ、於テ、海、美、
ヲ、闘、ニ、於テ、高、ヲ、競、フ、一、欧、米、ニ、於テ、ル、ガ、如ク、甚、ダ、シ、カ
ラ、サ、ル、可キ、リ、以テ、与、那、邦、邦、邦、結、ハ、在勤、ノ、書、携、テ、事、者
ハ、在勤、侍、ノ、三、層、ノ、二、位、ヲ、増、シ、權、衡、ヲ、得、ル、ヤ、推
考、セ、ラ、レ、記、シ、テ、以テ、司、國、ノ、事、情、ヲ、通、曉、ス、ル、者、ノ、新、心
ヲ、仰、リ、

為、茲、一、ツ、實、ス、可キ、一、元、本、書、記、生、テ、モ、ハ、實際、社
屋、へ、出、入、ス、ル、ヲ、要、セ、サ、レ、民、是、亦、外、支、支、同、極、書、携、テ、事
者、ヲ、以テ、之、ル、一、ト、為、シ、在勤、侍、ヲ、増、シ、ス、可シ、蓋、シ、名、公
使、館、之、少、ナ、リ、ト、モ、其、土、地、ノ、事、情、ヲ、通、曉、セ、ル、一、名

ノ、書、記、生、テ、モ、一、必、要、(一) 是、事、ハ、外、支、支、練、習、ノ、部、
於テ、詳、述、ス、可シ、(二) 是、テ、其、土、地、ノ、事、情、ヲ、通、曉、セ、シ、テ、
於テ、二、三、年、ヲ、以テ、支、付、セ、シ、メ、ス、可、成、永、ク、同、一、地、
ヲ、在勤、セ、シ、タ、リ、可、ト、ス、故、ニ、書、携、テ、事、者、書、携、テ、事、者、
能、シ、書、ヲ、以テ、之、ル、一、伴、ヲ、得、ル、極、防、正、セ、ラ、レ、一、ヲ、以テ、
之、

庚 寶石ノ名録ニ備付ル

亦、述、ル、如ク、書、携、テ、事、者、在勤、侍、ヲ、倍、シ、テ、先、
以テ、書、ヲ、交、際、社、屋、へ、出、ス、一、ヲ、以テ、之、ル、一、ト、爲、シ、
國、外、周、友、ノ、夫、人、中、ニ、祖、先、傳、來、シ、貴、重、ナル、寶
石、(一) 所謂、西、方、之、寶、(Gambianschale) 有、ル、者、
アリ、又、西、方、ノ、寶、ト、シ、テ、之、ヲ、以テ、之、ル、一、ト、爲、シ、
産、出、有、ル、者、多キ、ヲ、以テ、之、ル、一、ト、爲、シ、

頸飾、冠飾、胸飾及腕飾皆、光輝燦爛
眼ヲ射ル計リナリ尤モ固ニ由リテ、極別ニ矚ク程
ニ多ク由リテ、兎ノ角一團ヲノ、寶石入糝飾、亦
整フルモ、莫大ノ費用ヲ要ス可シ、況モ我國ノ公
使、コレヲ、書ヲ携テ、華セル者ガ、最モ困難ニ感ジタル
モノ、書ノ、寶石入糝飾、亦ナリト、事ナリ、又友ガ、亦
由リ、如ク、書ヲ携テ、華セル者、在勤侍ヲ、倍額スルノ制ヲ
乞ハレト、欲スル、之ヲ、以テ、衣服ノ、調製及、其他、百般
支障、与ル、費用、之、充テ、シ、タ、ガ、為、メ、ニ、シ、テ、此、中、ヲ、節
儉、シ、テ、寶石ヲ、買ホスル、分、ヲ、倉、ハ、コ、ヤ、ラ、ス、良、シ、ヤ、假
リ、ニ、倉、ニ、積、ル、ト、見、テ、モ、侍、給、ノ、錢、分、ヲ、割、キ、タ、ル、位、
金、貯、メ、テ、買、ホ、シ、タル、寶石、所、謂、西、家、ノ、寶、石、
モ、ノ、前、ニ、出、テ、ハ、ビ、カ、ト、モ、セ、サ、ル、ヲ、如、何、シ、セ、シ、夫、レ、改

洲、交際、社會、聖人、君子、ノ、居、居、布、ニ、ア、ラ、ス、惡、衣
惡、衣、ヲ、取、ル、者、未、ダ、其、ノ、誤、ス、ル、モ、是、ト、移、ル、
至、則、ハ、我、レ、モ、甚、好、都、居、ナ、レ、民、ト、ト、積、貫、域、者、ナ、ク
錢、糸、錢、十、萬、時、ニ、或、ハ、百、有、何、萬、ノ、重、寶、ヲ、奉、ヒ
燦、燦、タル、外、形、上、ノ、光、輝、ヲ、故、キ、以、テ、君、君、ナ、リ、ト
於、シ、寶、石、光、輝、ノ、良、否、多、ク、ハ、固、ノ、光、リ、ノ、良、否、多、ク
少、ク、ト、ス、ル、ノ、標、準、ナ、ル、ガ、如、キ、考、ヲ、有、ス、ル、小、人、俗
物、第、名、布、十、二、ノ、造、作、倍、ノ、入、リ、テ、ハ、倍、ノ、伴、ハ、サ、レ
可、カ、ラ、ス、然、ラ、ハ、則、チ、日本、外、交、友、特、ニ、先、ノ、芽、ニ、
公、使、ノ、夫人、ハ、光、リ、シ、少、ナ、キ、方、ニ、テ、目、ヲ、去、タ、サ、ル、程
友、ニ、近、連、ス、ル、頸、飾、及、冠、飾、皆、ヲ、好、ム、如、何
ナル、古、法、ヲ、以、テ、ス、可、キ、カ、合、ノ、有、極、ニ、テ、ハ、亦、之、シ、テ、政
府、ヲ、支、給、ス、ル、外、他、ノ、時、業、ナ、キ、ガ、如、シ、考、モ、考

案以以スレハ先ヨリ申者ナキニ使館へ五百両ツ
即チ我園現々十二使館ヲ有ルヲ以テ五千兩ノ
寶石ヲ備付クル事トナス可トス然レモ今々之様議
層ニ於テ此ノ如キ者ナクテ所スルカ如キ觀リ呈スル貴
目ヲ面テセシメサルハ勿論ナリ何トナレバ諸貴ノ
數ハ水雷艇一艘ノ効用ヲ知レバ公使夫人頸飾ノ
効用ヲ知ラサル者多クナリ可ク良シヤ毎少ノ効用
アルヲ知ルトスルモ其必要ノ程ナク事案ニ面テ
概測反シ得ルモノハ蓋シ稀シタル可ケレハナリ
當ニ對スルニ手取トシテ毎季各館ハ各因ツテ金計
概算四ノ機密金ヲ別途ニ立セシムルヲ津浦
毎季二公使館備付ノ分ヲ購入シ必要ノ程反
高キニ使館ヲ漸次備付リ始メ五ノ年ヲ期シ

テ各館者ヲ五百両ツノ寶石備付リ完了スル
トナリ可シ但シ此ニ使館備付ノ寶石決シテ永久
同般ニ返置ル可キモノアラズニ公使轉仕ノ節
ハ直チニ其轉仕先キハ備付テ五ノ年ニテ十ノ年
ニテモ在候中ハ寶石者ノ其轉仕地ノ伴フ
規程モ今ヨリ相有物タルノ觀リ呈ス可シ又若シ
公使内務ニテ後仕者其國ニ到ラハテ公使夫人
ニ使用セル寶石之ヲ他館ニ在ルモノト交換シ
同ノ地ニテ同ノ飾リヲ有候ニ使ハテ使館
セサレトナシ又五ノ年毎ニ今ヨリ備付リ交換シ
那ノ公使館ニ在ルモノヲ和蘭ニ使館へ送附
在ルモノヲ羅馬へ送附シ在ルモノヲ華盛頓へ
備付テ十ノ年毎ニ其年ノ支隊期節ノ際

借ナキ使銀ノ寶石ヲ賣リ世運若シク偏動ハ集メ
諸寶石ヲ担擧リ施コレ集メ之ヲ名銀ハ貯布在
トトおス可シ又十集以テト集モ甲地ニ在ルモト乙
地ニ在ルモト交換使用スルコトヲ許シ又自費ヲ以テ
其寶石ヲ使用シテ他ノ形ヲ有スル飾リ例ハ以テ飾
コト付所セル金剛石ヲ腕飾ニ付着スル等ノ類ナリコ
製表ナリコト許ス可シ此ノ如ク多有寶石ヲ巧ニ流
通交換セシムル中其長有物ナルコトヲ推知セシム
コトナカレリコト一人ヲ知ル處トナルモ是レ決シテ其
飾ヲ担リ使用スルコト取廢ニアラヌ又因所ニモ
アラヌ佛國政府ニテ各大使ハ其國產コブラシ
コ貨與スト出ク彼レト之レトハ少ク其趣ヲ尋
スレ民是レ國情ノ然ラシムル處ナリ

存ニ古法ニ依リテ購ホシタル五拾百圓ノ寶石ヲ
巧ニ流用シテ十集毎ニ担擧ヲ爲シ三十ヶ年同
使用(即チ二面担擧ヲ爲シ之ヲ賣却スル中ハ如何
コガナクトモ亦百圓ヲ得ルコト難カラサル可シ何トナレハ
寶石ナルモハ年ヲ経タルガ爲メ其價ヲ減ズルモハ
アラヌ又其價ヲ増スルコトナレハ年々又其寶
石ヲ抱團スル金銀ノ價シノ直取ルモ何時ニテ賣却
スルコト得レバ假リニ水取ルモ内情ニ據リ亦五圓ニ賣
却スルモトモ十集集積ニ於テ年々問ニ使夫人
ノ消費ス可キ飾品代ハ亦百圓之レニ二圓ノ担擧料
一回三圓ト見積リ六圓ト加フレハ亦六圓トナリ
之レヲ各年ニ配分スレハ老ク年々少ク分トナリ
之レヲ各年ニ割付スレハ一年一十圓分トナレ

終ル者ナリ

今後冊録ヲ種々帝國ニ於ケル面ノ權限ハ著ルレシク
進歩ス可ク他方國若中ヨリ外交官ヲ撰拔スル
下ヲ得ルニ至ルノ際ニ至キニテハ其ノ以テハ一極
特別ノ費用ヲ政府ヨリ支給スルノ必要ナキニ至ル
可シトモモ此冊録間ハ其ノ方法ニ依リテ一冊
一手補正面ノ割合ニ當ル實存ノ各級ハ備付テ
把口ハ誓ア日本帝國ヲ代表スル公使ノ夫人ヲシテ
交際社席ハ臨ハテ毎ニ其面セシメ其極限機ノ
処置ヲおスハ外交振興ヲ企圖スルノ旨ニ當テ其
必要ヲ感スルモノニシテ我國々自ノ有極ニ於テ帝國
代表者ノ半分ナル公使夫人ノ頭頸ヲ飾ルカ
ハ大毎年一子ニ百圓ノ以テ當ル金額ヲ支給スルノ
解法ナキニテハ其ノ可シカモ其旨ニ當テ其極限アルコ
トナレバ公使夫人ガ被テ其費亦要スル費用割合
多キ理由ナリ又書記官書記生ナレバ其ノ割合
少キ理由ナリナル可シ即チ公使ハ公使相當書記
記生書記生書記生ノ費用ヲ要ス一冊録ナリ然
リ而シテ公使ハ公使相當書記生書記生書記生
ノ在勤俸ヲ受テ其ノトモニ其費亦加付モ亦在
勤俸ヲ標準トシタル同ノ割合ヲ以テ支給可ク

辛 公使亦加俸ノ改正

現行制ニ於テハ特命全權公使及副使公使ハ
公使亦加俸トシテ赴任地在勤俸ノ十分ノ五ニ
受ケル氏書記官以下十分ノ二ヲ受ケル事ニナリ
指シリ然レモ是レ其當ヲ得タルモノニアラサルカ如シ何
トナレバ公使夫人ガ被テ其費亦要スル費用割合
多キ理由ナリ又書記官書記生ナレバ其ノ割合
少キ理由ナリナル可シ即チ公使ハ公使相當書記
記生書記生書記生ノ費用ヲ要ス一冊録ナリ然
リ而シテ公使ハ公使相當書記生書記生書記生
ノ在勤俸ヲ受テ其ノトモニ其費亦加付モ亦在
勤俸ヲ標準トシタル同ノ割合ヲ以テ支給可ク

クハ至者ナリトス

壬 家賃補助料及家具買入補助料

公使ハ公使館ニ住スルヲ以テ家賃買入補助料及家具買入補助料ニ付テハ其ノ重要ナル家具ハ書リ及物ナルヲ以テ公使ノ私屋ヲ投シテ買入セサル可カラサル家具ハ解リ毎カラス又雇人ノ給料及其被服費器械器具其他燃料及修膳費ハ各五分ナカラス角付外之レヲ考ヘ括シ凡書記書以下ノアリテ一切此ノ如キ費用ヲ考ヘス書リ私費ヲ以テ之レヲ与フ細セサル可カラス但し書記員若クハ外支及補助ニシテ指身ナレバ之レヲ考ケルノ必要ナリ只家具付テお慰ナレ慰接

問ト寢室トシテ借考ケレハ事見ル可シト筆を畫テ携筆考ケアリテ之レヲ買入ル一家計ヲ考ヘマサル可カラス一家計ヲ考ヘマシト欲セバ任電ヲ借入シ先可カラス任電ヲ借入レ先以上ノ對面同ノ飾リ付テ先トシ勝手ニ是ノ微ニ至ル迄一々之レヲ買入レサル可カラス然レリ而シテ書記員若シクハ外支及補助ニシテ見若シキ幕ヲ以テ立メザル程ノ任電ヲ借入ルニモ考地ヲ於テハ一々凡ソニ至百ケルデシ位ヲ要シ又之レヲ飾リ付クルニ少ナクモ考案ケルデシヲ要ス(考案ノ目ハ下宿シ控室ノ考案ニ借リ先ニ室ノ外ニ前室ノ付設浴室及勝手ヲ有ルニ控室ヲ作ル任電ナリト病人ヲ養フ人任電トシテ稍立派ナリ其家具金價ハ凡ソ考案ケルデシナリトノイナレハ如何ニ節

約ヲ加フルモ外交官ノ任事ヲ此等額以内ニ飾
リ付クルヲ得ル可シ然レモ侍從ニ依リテ衣食セサ
ル可カラザル我外交官ニシテ新々ニ例ハ舊國ニ赴
仕ル者家室ニおカテ老口バレルヲ授クルトハ到底
出立得可カラザルトナリ出立得可カラザルトナリト
シテ之ヲおサス事トナシテ一階ノ能ハサルトナラズ亦能ハ
書リ交際社層ニ比スレテ能ハサルトナラズ亦能ハ
タリ理由ニ由リ夫自身法ニテ出立得可カラザル
能ハズ若シ書記及以下ノ交際ヲおサレモ出立得可
夫妻ト肩屋ノ二階ニ起テ居ルモ出立得可カラザル
書記及外交官補ニ對シ妻携帶費トシテ亦出
立得可カラザル侍從ニ依リテ出立得可カラザル
ナキトナラズ現今ニ侍從ニ依リテ出立得可カラザル
ナキトナラズ

おスレ決シテ難キニアラサル可シ然レモ若シ此ノ如ク
シテ在勤セバ十年亦十年ノ久シキ同トナリ止ルモ
他國ノ事情ニ依リテ通ルレテ能ハサル可ク又歐洲
交際社層ノ禮儀他法ヲモ知ラズレテ能ハサル
可ク夫ハ書記役若シク及譯者若シテアラズバ
半給ニ學考ニ依リテ出立得可カラザル日本人トナラズ
歐洲婦人ニ對シテ簡易アリテモカモ歐洲婦人ニ
精神ヲ解セサル一極ノ婦人ニ依リテ出立得可カラザル
夫婦ニシテ十年亦十年ノ久シキ同トナリ止ルモ
代表ニルニ依リテ出立得可カラザル夫人トナリテ亦何
シテ其職ヲおサスレテ出立得可カラザル蓋シテ使ノ職
務ニ依リテ對シテ自國ノ言語ニ代表シ自國ノ
精神及物質ノ利ヲ進出スルニ

リ故に其自射ヲ達スルニ他國ノ事情ヲ通シ且
他國要路ノ士女上流社層ノ好感情ヲ亨ケザ
ル可カラズ他國ノ事情ヲ通シ且他國要路ノ士
女上流社層ノ好感情ヲ亨ケト欲セバ先ハ他國
要路ノ士女上流社層ト交際シ厚クセザレバ
之ヲ然リ而シテ公使ノ主人尤若ク實ニ此交際ヲ
助長シ夫レシテ人ノ敬愛ヲ得テ其交際ヲ
以テ以テ夫レ親類ヲ得ル上ニ百接シ一大便也
與ルルニ他レモ十位此重信ノ由ル如キ日
本婦人ニシテ純然先日本婦人ニシテ又歐洲婦
人ノ類似ニシテ獨リアリテ而カモ歐洲婦人ノ如ク尤
能ハサル一種ノ婦人ニシテ則テ庶幾シ能ハサル可
以リ併國帝政時代ニテ政府ニ關係アル社層ニ

良婦人アリタレ民皆相政治ノ代トナリテ以テ事男
子ニ有テ士女ニシカランモ兎角良婦人ニシ
テト良婦人ニシテ一一般ノ政治社層ニ於
テ尤モ進歩トシテ所況ニヤ外交社層ニ於テ
才ヤ、藝ニ外交友夫人ニシテ能ク延ビテ陰然
其夫ノ親類ニ至大ノ關係ヲ及ボスニ至ル可
カラサル事實ナルカ如シ故ニ外交友ノ權擢ト云ハ
決シテ外交友其人自身ノミナラス亦其夫人ノ
能ク如何ヲモ調査セザレバ可カラズ然リ而シテ外
交友ノ親類ト云ハ外交友其人ノミナラス亦外
交友ノ夫人ノミナラス其廣クニ於テ解款
ナリセ人併帝十ホレオニ才ヤガセテ之ヲ
指テノ擢トナリタルヲ知ラザレバノ十位其子

○書記長以下ノ

既、巴里ニ於テ、埃國全權大使、ムッテルビ
夫人、パウリーネ、為テ、描トナリタルヲ知ルモ、オチキ
カ、如シ、日拜、若シ、将年、クイテラシ、ノ、如キ、又カ、ブール
ノ、如キ、美才、紫出、久可、シトセバ、パウリーネ、ムッテルビ
ノ、如キ、外交、友、夫人、出、来、サレ、モ、限、ラ、サ、ル、可、シ
要、ス、ル、モ、貴、到、ル、所、埃、州、人、ヲ、相、年、セ、サ、ル
可、カ、ラ、サ、ル、也、ノ、社、居、特、ク、外、交、友、社、居、ラ、ル、ヲ
余、ヲ、婦、人、ノ、力、ヲ、結、ス、大、徹、法、徹、底、柔、ヲ、捨、テ、
剛、ヲ、採、リ、情、ヲ、去、リ、テ、理、ヲ、就、キ、愛、ヲ、退、ケ、テ、正
ヲ、用、キ、冷、シ、甚、目、的、ヲ、達、セ、テ、一、切、ヲ、捨、テ、健、ハ、サ
ル、ナ、リ、必、ズ、ヤ、柔、剛、相、待、テ、情、理、お、合、シ、正、変、相
應、セ、サ、ル、可、カ、ラ、ス、此、ヲ、以、テ、我、國、外、交、友、ニ、シ、テ、妻、ヲ
携、帶、ス、ル、者、モ、妻、携、帶、費、ノ、外、家、賃、ヲ、給、シ

其、給、タ、ク、赴、任、ス、ル、者、モ、家、具、買、入、料、ヲ、給、シ、以、テ
夫、婦、共、ク、或、際、社、居、人、出、入、レ、テ、可、ト、思、セ、シ、タ、タ、シ、ト
能、モ、我、國、司、各、取、ノ、政、費、多、キ、ヲ、以、テ、如、何、外、交
ノ、振、張、ト、良、外、交、友、ノ、善、成、成、ノ、目、的、ノ、為、メ、如、ナ、リ
ト、シ、テ、到、任、十、分、之、出、給、ノ、費用、ヲ、給、ス、ル、ト、ハ、勢
ノ、許、サ、レ、ル、所、ナ、ラ、キ、ヲ、以、テ、宜、ク、家、具、買、入、料、及、家、具
買、入、ノ、要、ス、ル、可、キ、買、費、ノ、凡、半、額、ヲ、其、補、助、料
ト、シ、テ、支、給、シ、以、テ、之、完、全、ナ、ル、事、ヲ、モ、テ、外、交、社
居、人、出、入、レ、テ、外、交、社、居、人、於、テ、ル、者、ヲ、至、シ、現
在、外、交、友、若、シ、逢、外、交、友、去、婦、ヲ、シ、テ、任、用、事
務、ヲ、通、曉、セ、シ、テ、又、埃、州、外、交、友、社、居、人、情、緒、ヲ、
熟、達、セ、シ、テ、大、事、務、ヲ、妥、當、ニ、了、ス、ル、可、キ、外、交、友、的
外、交、友、ヲ、善、成、ス、ル、ト、同、時、前、述、ノ、如、キ、一、種、ノ

婦人陶冶スル代リ之。歐洲外交官夫人令方ラ
 其社交的ノ技倆ヲ有シ夫ノ職務ヲ終ス上ニ
 直接ニ至大ノ利益ト便直トヲ與フル下ヲ得ル
 外交官ノ良夫人ヲ培養スルハ階梯ヲ
 創包スルニ當リ目々々急務ナリト信ス
 妻携帯ノ書記官及外交官補助ニ与給ス可キ家債
 補助料及家具買入補助料凡ソ左ノ如クナ
 ラシカ

家債補助料(実費半額ノ見積リ)

英米露佛	金額	金貨	八百円
埃	同	同	六百五十円
招	同	同	五百五十円

伊	同	同	四百円
蘭	同	同	三百五十円
支那	同	銀貨	五百五十円
朝鮮	同	同	五百円

家具買入補助料(実費半額見積リ)

英米露佛	金貨	三千円
埃	同	二千五百円
招	同	二千円
伊	同	一千五百円
蘭	同	一千二百円
支那	銀貨	三千円

朝鮮

銀貨

二千四

目下海外在勤ノ者及新々存邦ヲ引赴任之
者并々他事有リ轉任之者ニシテ書リ携帶
之者及在勤中諸務セリ者之金銀ヲ給シ一毫
金銀ノ与給テ受ケタル者再ビ給テ存邦ヲ引
赴任ノ海ノ三令ノ二次州諸國ト亞細亞諸國同
及米國ト歐洲諸國ト米歐ト西細亞同ト諸任
ノ海ノ二令ノ一次州内、亞細亞内ノ轉任十分ノ
三トス

正界 廣シト兼ニ公使ノ夫人ノ次々發石ヲ公使館
ニ備付テ書リ携帶スル事此在外交友補ニ家貨
補助料及家貨買入補助料ヲ給テ同ノ一

ワトシテ之レアルヲ由カズ客ニ古令ニ類例十キノ規定
ナリト謂ハサルノ由ク又然ルニ此ノ如キ類例十キノ制ヲ
採ラサル可カラサル止ムヲ得サル所以ノモノ我帝
國ノ實ニ由リテ類例十キノ國ニシテ其外交友財
產上之有格モ亦正界ノ類例十キヲ以テナリ
類例十キノ國ガ如奮テ類例十キノ進歩ヲ為
サントスルニ際シ類例十キノ外交友ヲ結盟スルニ
類例十キノ制及リ採リ是ラサルヲ是レ以テ外
外交ノ養成及練習ノ資ニ供スルニ外ニ一大
勳興ヲ著セザル可カラサル今實ニ臨機極切
ノ活手也ナリト信ス豈ニ類例ヲ進フハ必要
ナラズヤ

第三 一定期間内勤續云使ヲ兼務

列スル

人君之爵アリ何レゾ人爵ヲ要セシヤナゾト咸
張リ自由平等ヲ以テ天下ニ稱呼セラレ米國
人ニシテ為君ノ人爵ヲ慕ヒ之レニ垂涎スルハ人
知ラズル所也其ヤ他國ノ人トシテオヤ神ナラヌ者
人凡夫特ニ俗界ナル歐洲支那社會ニ於ケル
人爵ノ勢力(但シ國權ヲ格別ニテラサレ由)ハ概シテ
強盛トシガ如シ特ニ為樞要國ニ於ケル甚タトス
故ニ華族ト身ニテラサレシニ一色ノ期限
同外夷ノ人爵ニ在ル者ヲ華族ト列スルハ吾人
人類ノ弱點ナルヲ察シテ利用シテ以テ有為ノ士ヲ
外交友界ニ吸收シ且ク轉友区友等々念
有年此ヲ心一色其後務ニ勉勵セシムル

其年取 凡ノ人ナラヌ 公使トシテ他國駐在
社会上紳等々名此少ナカラヌ是レハ友ガ公使ニシテ
一色ノ期限同在職ノ者ヲ華族ト列スルハ方針
ヲ執レシニテハ希有ナル所也然リ而シテ華族
列セシムルキニ係ル少ナリトモ十年以上外夷ノ
職ニ在リ内五年以上公使ノ職ニ在リ且ク若シ
以テ其ノ外夷費補ヲ行ハシメ且ク若シ最
下期限十年以上公使ノ職ニ在リ且ク若シ最
ニ係ル昇リ者一色ノ期限同在職スル者ヲ好
遇ニシテ光榮ヲ連ノ外夷費ヲ陶治スルノ意ニ
外ナラヌ故ニ昇リ五年以上公使ノ職ニ在リ且ク若シ
五十年以上外夷費ノ職ニ在リ且ク若シハ華
族ト列ス可カラヌ

公使ヲ派遣スルノ階級及標準凡ソ左ニ如ク
ナラシカ

男爵

十六年以上勤続ノ外交官ニシテ内五年
以上公使ノ職ヲ充テタル者

子爵

廿一年以上勤続ノ外交官ニシテ内五年
以上特命全權公使ノ職ヲ充テタル者

伯爵

廿五年以上勤続ノ外交官ニシテ内
五年以上特命全權公使
ノ職ヲ充テタル者

但シ存者勤続ノ年限ハ左ノ二ニ算入スルモノト
ス

右ニ如ク經歷ヲ積ミタル老練熟達ノ外交官ヲ
派遣スルトモ或ハ他ノ行政官ノ待遇ト

權衡ヲ失ストノ虞ナキニテ可シト雖モ上ニ準テ論
述セルガ如ク一ニ優劣ノ門ニ集ラ
シメ之リテ良ク外交官ノ表威セト欲セハ外交官ノ
待遇ハ起然他ノ權衡ニテ可ナク
示スルニ水ガハ滿腹ノ行政官ニモ
其業ノ駿々トシテ勤興セトスルノ
外交官ノ般收スルノ格ヲ能クスル
並シ其年々進歩月同外交事務ノ
其光練熟達ニテ常同外交官ノ一部
任スルノ格ヲ有キ公使ノ權衡ヲ行
不相爲ノ待遇ニテ可シテ
ナラズ其才學ト經歷ト酬ニテ公平
リトシテス

第四 外交友恩給金の特乞スル

外交友既ニ他ノ行政友ヨリ多額ノ俸給ヲ受ケ
在勤中ノ多額ノ在勤俸ヲ受ケ其妻ヲ養育
スル者ニアリテハ妻ヲ養育外ニ家賃補助
料及家具買入補助料ヲ受クルノ規程ヲ設
クルトスルモ此等ノ多額先取金ヲシテ可成其地
位ニ相違無其地位ニ接近スル生活及實際ヲ
為サシムルガ為メニシテ決シテ其一部分ヲ貯蓄セ
ルガ如クナラズ然レハ人名義先取金ヲ受ヘサル
者アリス事あり有スル者アリテ特ニ然リトス
テ外交友ノ収入ノ兎ニ角多額ナルヲ以テ恩
給ノ法ニ於テ欠ル所アリハ貯蓄ノ念ヲ起ス
者アルニ至ルハ自然ノ務ナリ夫レ現行友吏

恩給金ノ律ガ一般ノ行政友ニ對シテ非テ然ラズ
心ナルニ云フヤサレバ可キモ外交友ノ為メニ
十心ナリト謂ハサレバ可カラズ何トシテ外交友ニ
サレ一般行政友生活ノ程度ニ俸給ヲ甚クキ外
友友生計ノ標準ニ賃賃ニ支給セラル。亦俸
本俸ノ凡ソ倍若ク、倍以上ノ在勤俸ト妻養育
費等ヲ含シタル多額ノ其等クテ以テ彼我平素
生活ノ程度決シテ可クノ論ニアラズ或ハ曰ク改
米消費ノ物價高貴ナリト物價ノ高貴ナルハ
事實ナルニ其甚矣陳ノ有極ナリト云フ物價高
貴ナリト云フニ其甚矣陳ノ有極ナリト云フ
アリ至者ナリトス換金スレハ改米消費ノ極ナリト
云フニ於ケルアリハ遙カニ上場ノ衣食住ヲ用ユルナリ

然り而シテ外或安んずるも本邦固有ノ
在居任ヲ擲テ改米湯國ノ風俗習慣ニ浸染シ改
州流ノ上場ニ近年在居任即チ少ナク本邦
ニ移ル者亦七倍有キ生計ヲ爲ム止リ得ザル
地任アルモノニシテ其恩給ヲ受ケ隠ル者ハ井
年亦年又四十歳同外或安トシテ在居任セル者
擲テスレバ外或安リ以テ身ヲ立テ外或安リ以テ身
ヲ終ル者ナル可キヲ以テ九州ノ上場ニ近年在居
任ハ退隠セシトスルノ外或安ニ極テテ其ノ浸
染ニ延テ永遠ノ習慣トナリ其後ニテ自然ノ需
用トナル可シ夫レ此ノ如ク移民ノ爲メ生計
ニ慣レサル可カラサル止リ得ザル事アリ且ク終身
大半ヲ愛國ヲ愛國ニ送リ俸養ヒ精弱リ

長クモアラズ又假令生計ニ困ルニ至ルニ至テ退隠外或安ニ對
シ六七倍在居任生計ヲ標準トシタル普通恩給
令リ適用スル者總者公平リ欠クノ事ナラズ
實ニ強忍酷虐ノ愛國ナリト謂ハサル可カラズ
本邦新得外或安ナル事結露スルノ古法ハ暫ク
擲キ第一篇ニ於テ由タル如キ習慣極ク有ル外
或安ヲ採用シ之ヲ老練熟達ノ外或安ニ對
成シ智心一途他ヲ顧ミズ其移民ノ全カキ
サシテト願フ必スヤ其先ノ法ヲ究然ナラシメ
愛國ノ風土健康ニ適セズ為メニ殊ニ病ヲ醸シ
終ニ移民ニ堪ヘサル事又ハ老衰退隠
セル者リシテ數十年同慣習トナリタル寢臺ノ上ニ
起臥セシメ永年月同在居任ニ慣レタルビーフスナキ

借入金セシルレリ得ル極ニセサルヲウズ之レヲ要ス
 ルニ野望ヲ目的トシ若クハ強ク見越スレ修業ヲ
 考ラニセサル外交官ノ操スレハ外交官ノ心ヲ以テ
 心トスル外交官即チ少ナクモ將本出テ不可キ
 外交官ニ對シ善道恩給令ヲ適用スル決シテ
 外交官對外交官ヲ結盟スル途ニアサルナリ
 必スヤ外交官ニ對シテハ特ニ恩給令ヲ制定セサル
 可カラズ然ラバ則チ其標準如何
 外交官ノ凡ソ半生同操レタル生活ノ程度是レ
 即チ外交官恩給ノ標準ナリ換言スレハ在任
 在勤俸及妻孥ノ養育ノ金算シタルモノナリ
 外交官恩給ノ律ヲ劃シテ基礎ト爲スニ元
 本至者ナレ此ノ如クスルハ恩給額亦尠ク當

之旨ノ勢利存存実行ニ難カレ可ク是ノ我國ノ
 生計ハ一級ニ修リ加之物價モ廉ナルヲ以テ外交
 官俸入金ノ全額ヲ標準トスル程ノ必要ナカル
 可トモ無キ賃賃ニ支給シ受リル俸俸ヲ標準
 トシ(亞細亞諸國在勤ノ若亦同)恩給ノ最下期
 限ヲ十年最大期限ヲ十年トシ恩給ノ最下額
 即チ十年以上十年以下ニ病彙若クハ年終
 満期ノ故ニ以テ恩給スル若クハ恩給額
 千二百四十金ノ八十(即チ俸給ノ五ノ一)トシ十年
 以上一年毎々其律ヲ進メ滿十年ニ至リテ俸給
 全額ヲ給スル特典ヲ設ケルモ外交官ノ心ヲ以テ
 心トスル外交官ヲ結盟スルノ道トシテ採テ置
 ニアリテト信ス然リ而シテ現行善道恩給令

於此年限ノ最下期限十年ヲ十年ニ改メ
最大限四年ヲ十年ニ縮ムカニ海外ノ地タル
如何ノ業能温和ナリト稱セラルル地ニテモ之ヲ本邦
ニ比スレハ概テ先能粗悪ニシテ日存人々ノ身体ニ
日奔極速ニ入スル土地ニテノ留説ヲ出キタル
アルヲ以テナリ是レ固ヨリ天下ニテ漏レハアラサレ
此況タル蓋シ大ニ可ク早ク締盟國ノ多數
ハ日本ニ比シ業能ノ高シカラサル大ニ事莫ナリト考ヘ
ラレヨリ以テ甲國ヨリ乙國ヨリ丙國ニ時々或ハ
極速國ヨリ極速國ニ轉任スル一十年ニシテ下
此可キヨリ以テ外交官ノ福業ニ罹リ身体ヲ傷メ
場合本邦内ニ在ル者ニ比スレハ多カル可キヲ願
望シ是亦外交官ヲお養ヒ待遇スルノ道ニシテ

タレナリ

右外交官ノ恩給令々ノ順事友及本者勤勞
ノ度更モ亦之ニ均霑スルモノトス但本者勤勞
ノ年限ハ三年ノ二ニ算入ス例ハ十五年同本者
ノ勤勞ハ十年同例ハ在勤者相違スルガ如シ
以上陳述セルガ如ク外交官ノ待遇ヲ一變スレハ外交
官ノ務スル學識及性質ヲ兼備セル人方ヲ外交
官界ニ吸收シ此人方ヨリ長ク外交官ニ養成シ本
邦ヨリ出スレテ外交機關ノ本質更ニ變換
改良シ以テ外交官ノ大振興ヲ企圖スル年久ノ骨
髓ナリト信ス若シ夫レ外交官ノ待遇ヲ以テ
振興年若シレハ微々タル山ヲ加ヘ以テ熟練敏達
ナル外交官ノ天化ヲ待ツハ概テ肥料ヲ施サズ接

客に加へス。美軍ノ結バン。均ニ呼
新。然一大改革ヲ加ヘサル可カラサルモ。外交
ノ待遇ナリトス。

第三章

外交官ノ練習

政事各事ニ於テハ外交官ハ概テ資産アル貴族若クハ
社会上ノ地位貴族ト略同キ富豪者ノ子弟ノ中
ヨリ採用スルヲ以テ原則トスルハ前既ニ述バクル如シ而シ
テ貴族若クハ富豪ノ子弟ハ不見ル時代ヨリ佛人ニ
然キ佛語ヲ自然ニ學候シタルモ多キヲ以テ政事外
交官ニシテ佛語ノ讀書讀クニ差支リ感スルモノ殆ント
皆無ナリ然レ共ニ外交官ハ如何迄年出身ノ書
記及外交官補ハ日本ニ於テ十數年留英佛独語ノ一
ノヲ學候シタル者ニハ差支ナシト云々英佛独語ノ一
ヲ以テ讀書書ヲ十分ニ得ルニ到ルニ其已ニ、學候
セル者ノ本心ニ三四年前際立セザル可カラサルカ如シ然レ共

是レ決シテ怪ニ思ハラス何トナレハ我々日本人が政語ノ一ツヲ
學ブ、困難ハ政語ノ一人カ他、政語諸君ノ三四語ヲ學
ブ、困難ニ比ス可キヲ以テナリ然レモ今日、勢我々外交
官が佛語ヲ讀書讀ヲ為シ得ズシテ止ル可キ、林ニアラス
直ニ舊ソテ之ヲ研究セラル可カラス要スル我々現々外
交官ノ多數ハ語學ヲ練習セラル可カラサル、必要アリ是レ
我々下級外交官カ政語者不、下級外交官ヨリ練習
ノ区域廣キ其一ツナリ

又政語者不、外交官ハ別ニ練習ヲ要セラルトモ我々
外交官ガ最も熱心ニ練習セラル可カラサル、ハ政語社
会ニ要スル諸般ノ要件ナリトス抑我々ハ極東ニ位シ
政語者不ト全ク風俗習慣ヨ異ニシテ先ん以テ經令ニ
亦邦ニ於テ一ツ政語ヲ解シ身ニ译收リ纏ヒ時ニ感ハ

西洋料理ヲ食シタル者ニテモ外交官ノ臨ム政語社会ニ入リ
進退應對具宜シキニ適ヒ起居動作其存リ得ントハ糾
察望ミ可カラサルノ一ツナリ然レモ日本人ノ性ニ概シテ英敏
ナレハ少シク意ヲ公道ニ注キ書籍ト先取事トニ務キ之ガ序
限リ研究シ屬政語社会ニ出入シテ數年回定地ニ練習セ
ハ必ス其門ニ入リテ得可シ經令進退應對、上ニ於テ多
ク得タリトスル處アリトスルモ音楽其居オベウ等ノ大要ニ因
シテ居ラザレバ流流ノ好材料ナキヲ以テ或事ニ因スル一節ノ節
道ニ知り居ラサル可カラス又舞踊ノ如キハ我々日本人、脚ニ
ハ最モ島森ガタル、觀ヨロモナレモ比テ少シク舞踊ノ心得ア
ルハ姿勢ヲ立派ニ學勤リ優美ニ進退ヲ確實ナラシ
ムノ効用アル、ミナラス人ト知レバ求ル上ニ非常ノ便宜アルヲ
以テ舞踊モ亦稽古セサル可カラス然ルニ最モ敏腕ナリト聞

アル我一外交官ハアル夜会ヲ控テ貴君ノ舞踊ヲみサセヤトノ
一貴婦人ノ質問ニ對シ舞踊ハ我々ノ習慣ニテラス故ニ余ハ
舞踊セガルナリト答ヘタリト他國キ若シ此事ニテ果シテ事
實ナリトセハ之レ至當ノ答弁ニアラサル也シ若シ假リト小友リシテ
以質問ヨナシタル婦人ノ地位ニアラシメハ日本外交官ノ答俤
ノ終ルリ殆クタス然ラハ貴君ハ貴君ノ習慣ニテラスナルト何
事モ行ハカルヤ貴君ガ々々所ニ椅子ニ腰ヲ掛ケ居ラルハ
日本ノ習慣ナリヤ又日本ニ於テハ板ノ上ニ置ク數キ且上ニ
西足リ座シテ坐スト圍リ何故ニ貴君ハ我々ノ靴ヲ踊ル
數物ノ上ニ赤流ニ坐カサルヤ貴君ニテハ二本ノ小樽ヲ以テ
只ノ水ヲ賣タル米ヲ食スト圍リ何故ニ貴君ハ「フー」トナ
イフトミ「フ」ステ「キ」ヲ食セムンヤ日本ニテハ靴ヲ履キテ室
ニ入ルト圍リ何故ニ貴君ハ靴ヲ履セサルヤ貴君ハ赤流服裝

ハ貴君ノ赤流服裝ナリヤ九時退キト夜会ニ臨ムハ貴君ノ慣
習ナリヤ貴君日本ノ習慣ナラサルノ理由ヲ以テ舞踊セ
ズトナラハ貴君ハ日本服ヲ着シ足袋ヲ穿キチヨシ靴ヲ結ビ
大ハコ靴ヒニ赤流ノ樽ヲ以テ水ヲ賣タル米ヲ食シ以テ如キ
貴君ノ習慣ニテラスナル夜会ニ臨席セザルリ可トス要スルニ貴
君ハ政婦人トシテ實際セラレサル方然ル可ク又貴君ハ政物
各事ト實際セザルニ如カスト答ヒタル可シ
是レ固ヨリ極端ノ論ナレモ洋服ノ着シ靴ヲ穿キ政婦人
ノ實際場裡ニ臨ム以上ノ身躰念ナカラシ我々ノ習慣ニテラスナル
下ニテモ之ヲ採用シ以テ政婦人ノ嗜好ト我々ノ嗜好トナシ可キ
一ハセシメサル可カラシ蓋シ嗜好ノ同シキハ親密ナル實際ノ一
大富源ナレバナリ例ヘハ上戸ノ下戸ノ酒ヲ飲マサルハ且下戸
ナル故タルヲ知リ又下戸ハ上戸ノ餅ノ食ハサルハ且上戸ナ

ル、故ヲ知ル然レモ上戸ノ交リ上戸厚易ク下戸ハ友リ下戸
ニ厚易シ政如ク交際社会ニ於テ日本人ガ政如ク交際社会ノ
事情ニ因襲セズ應接ニ拙シテ政如ク音楽美術等ノ志
操ナキヲ答ルルモノアリタル可ク又舞踊ハ日本ノ慣習ニアラサルヲ
以テ日本人、踊レサルヲ以テ難スルモノアラサル可シ然レモ酒席ニ於
テハ餅ヲ食フモノヨリモ好シテ酒ヲ飲ム人ニ好感情ヲ表スト
同種政如クニ交際社会ニ於テハ政如ク交際社会ノ事情ニ
因シテ政如ク人ト政如ク同一ノ嗜好ヲ有スル者ニ對シテ好感情
ヲ惹起スル情勢、然ラシムル処然リ而シテ政如ク交際社会ノ
事情ニ因スルノ愈多ク政如ク人ト嗜好ヲ同フスルノ愈多
ケハ政如ク人ノ好感情ヲ得ルノ亦愈多カル可シ日清戦争
ニ際シテ政如ク諸事ノ利害ノ關係上ヨリ日本ニ對シテ舉動
シメシタルモノアリタレモ學ニ感情ノ問題トシテハ日本ニ好

感情ヲ有シタル者多カリシガ如シ而シテハ最大原因ニ及
那ガ尊大傲慢ナルニ及シ日本ハ近年政如ク師トシテ日
本人ノ嗜好ハ漸ク政如ク人ノ嗜好ト接近シツ、アリシヲ以テナリ
今眼ヲ故ヲ字内ニ大勢ヲ視ルニ政如ク諸事ノ權利ノ主体
タルカ如ク且細重要ノ利加等ノ權利ノ客體ナルカ如ク觀アリ
以テ以テ我日本帝皇ガ他日富強ヲ以テ天下鳴リ振リテ
達スル所ハ可成丈ケ政如ク人ノ好感情ヲ具置ク一極ノテ必要
ニシテ其時ニ至ル所ハ日本政如クニテラス米ニテラス英ニテラス
佛ニテラス亦棟逆ニモアラス日日本ハ即チ日本ナリトノ主義ヲ
發表示シ整々ト之レヲ貫徹スルノ故ニハ中
政如ク風俗慣習ヲ快シトモナリモノアリテモ苟モ一吾籍ヲ
外交官ニ列シタル以上ハ風俗慣習ヲ知リシ政如ク人ノ嗜好

好々採用シ歐州人ヲシテ先ツ此ニ對スル好感情ヲ惹起
カシメ以テ帝皇ガ其好感情ヲ育ニスルニ至ルノ基ニ作出
セザル可カラス然ラレハ閣下ノ所謂廣ク任セ上流ノ士ト交
際スル子ツスルノ能ハスニ交際厚キニアラサレハ閣下ノ所謂應心
船漢王ノ向ニ我ノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ探ルノ原則ヲ定メ
スル能ハス然レ而シテ此事ノ出来カレハ外交官即チ深謀機
敏ノ性質トシテ之の才能トシテ兼備セザル者ハ他ニ如何ナル
夢同藝能アリトモ在レ決シテ外交官ヲ以テ目ス可キモノニ
アラカルナリ物ニ陰陽表裏ノ別アルノハ教育ニ欠キテ為言
家モ之ヲ知り事ニ正復ノ別アルハ少學兒童モ亦之ヲ
解スル処古ノ上ニ於テモ戦争ニ於テモ又外交ニ於テモ巧ニ
以善由ノ原則ヲ遵守スルモノハ榮ノ之ヲ遵守スルノ術ニ
拙ナルモノハ衰フ野津大將ガ大島旅團ヲシテ本壤ノ正直

ヨリ攻撃チセシメ敵ノ主力ヲ以テ所ニ集中セシメ東面ヨリ之ヲ
陥取シタルハ表裏ノ理ヲ遵守シタルモノナリ伊東中將ガ押路
江ニ艦ニ在リ陣ヲ張り丁汝昌ヲ破リタルハ正道ニシテ同年
將ガ防材ヲ以テ堅守セシ威海衛ノ暗殺ニ乘シテ水電艇ヲ潛
入セシメ北洋艦隊ヲ殲滅シタルハ是レ即チ表裏道ナリ我々陸
海軍將帥正復ノ道陰陽表裏ノ理ヲ實際ニ遵守スルハ
戦勝ヲ得タル所以ナリ然レ而シテ外交官ナルモノハ最モ是レ
以テ表裏ノ道陰陽表裏ノ理ヲ活用運シスルノ能力ナカル
可カラス平素任セ上流ノ士トニ交際ヲ自ラシテ不ノ事情ニ適
シ任セニ對シテ自ラ威嚴ヲ保持スルト同時ニ任セラレテ自
ラ對スル好感情ヲ抱持セシメ且ツ自ラ物質的利益ヲ進
展シテ画スル等ハ且ツ正ナルモノニシテ一朝任セト自ラ同利
害ノ關係ヲ異ニスルニ方リ一カニ任セラレテ不ノ意向ヲ豫察シ

自不改存リシテ之レニ應スルハ筆ヲ執ラシメヤ、一布ニ於テハ
任不改存、意向ヲ變轉セシメ禍ヲ未幾ニ防キ既ニ免シタル
禍ハ之ヲ其末ヲ長セラルニ川リ出東得可クハ禍ヲ轉シテ
福トナス等ハ其變ナルモノナリ。倭洪不吐務之為ゴルホウスキ的
ガ昨年露帝、倭都來遊ニ對スル倭白王ノ答禮ノ名トシ
過日フランス、ヨルセーフ皇帝陛下ニ供奉シテ露京ニ在リ
バルカン半島ニ對スル露界ノ圍シ露界ト共同一白、實ヲ舉テ
半年來日夜顧慮也今セルバルカン半島ノ問題ニ付一
朝重荷ヲ卸シタルノ感ヲ買ヒ半年向ノ反目對抗氣
勢々々、王地ヲ變シテ突趨、握手知氣、洋洋々々、王地ト爲シ
タルハ、固ノ戰爭即チ露境向ニ事ヲ醸ス、最モ危險ノ導
火タル可キ土布、葛藤ヲ利用シ帝ノ禍ヲ未幾ニ防キタル
ノミナラス、福ノ變シテ福トナシタルノ況チ、好ニシテ雨降リテ地固

マリタリト謂ハンヨリハ寧ロ雨ノ利用シテ地ヲ固メタルモノ
ナリ夫レ雨ノ利用シテ地ヲ固メ禍ヲ轉シテ福トナシ敵ヲ變
シテ味方トナシント欲セハ必スヤ正變、別陰陽表裏也、理ヲ
知ラシ巧ニ之ヲ應用セラル可カラズ、今若シ二個ノ陽性電
氣ヲ接觸スルニ其ニ相衝突スニ個ノ陰性電氣ニ於ケルモ
亦然リ然レ陰陽両性、電氣ニ其末ヲ接觸セラルニ先チ
只タ之レ一一定、距離ニ近ワクルハ必ス相結合シ強ク之ヲ
遠クルモ必ス再ヒ接觸ス、而陽相衝キ陰相反シ陰陽相
引クハ物理ニ定カスニ於ケルハ、其ノ所若シ夫レ
而陽コレヲ其ニ衝突セシラシメント欲セハ必スヤ陰性、媒
介ヲ求メサル可カラズ、人壽ニ決シテ物理、定刻ノ離ルモノ
ニアラカルハ、哲學者、社會ノ定論ニシテ吾人々類、社會ニ於ケル
陰陽両性ノ關係モ亦決シテ此理ニ外ナラス、特ニ政治家、人

の對手トスルニ際シ婦人ニ類ルニテラスニテ空際ヲ辱フセシト欲ス
ルハ猶木ニ縁リテ果ヲボクナントスルニ均シ閣下若シカバウシテ
以所ニ極端ノ説ヲ述ブルコトヲ許容アラハ少古ニ左ノ想像
説ヲ述フルコトヲ憚ラカル可シ「日本公使何、某ト外務大臣
ノ夫人トハ余程別懇ナリ日本公使館書記長何、某ト
某伯爵夫人トハ閣下ニ通年交際ノ範圍ヲ越セタルガ
如シ日本外交官神何、某ト美ト質ト富トコトヲ以テ左ノ都
有名ナル某令嬢ト結婚ノ如整ヒタリ日本公使夫人、
受日ニ縁テ餘、訪問ヲ為サル外務大臣が毎國々ス
来リ居ルハガシク目立ツナリ日本公使館書記長何某、
某ト上院議長が彼、白髪頭ヲ振リ立テ、赤古髯ヲ使
フ様子ハ少向ニモ見苦シナト、評利立ツニ至リタレハトテ
之レ決シテ我ト外交官、恥辱ニアラス帝ニ恥辱ニアラサル

ノミナラス寧ロ質ス可キナリ何トナレハ以テ等風評ノ由
リテ起ル所以、モノハ我ト外交官が政務官ニシテ社会ノ慣
習ヲ熟知シ政務官ノ誘致ヲ以テ已、有トナシ空際最モ
巧ミナルハ左ナレハナリ若シ然ラレハ決シテ以、如キ風評、
由テ生ス可キ理由ナク、命令ニテ人風評ヲ立ツルモ何人モ信
スルモノナキニ至ル可シ左レハ日本外交官夫婦ニモ
如キ風評ヲ受クルノ域ニ到達セシト切ニ希望ニ堪ヘリル
ナリ何トナレハ以テ閣下ノ所謂舊敵漢子ノ向ニ
我ノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ揺ルト自由自在ナル可シ即チ
日本外交官ノ一大進歩ナル可ケレハナリ
然ルニ我ト外交官界、有ニ極テ察スルニ例外ハ勿論可有之
シト余氏猶ニ此ト外務大臣ト誓々々ニ誓々々々漢子ノ向ニ
ヲ上下シ得ルノ公使アリトスルモ夕ニ外務大臣ノ夫人ノ向ニ

快談歡語時、秘ルヲ知ラシメサルノ公使多クカフカカ如ク
最忠ニ榮歎適用ノ範圍ヲ許シテ公使ノ美考ニ供シ
得ルノ書信也、方アル可シトモ、此一事件ノ起ルニ際シ、任公
政存ノ意向ヲ探知シテ公使ヲ益スルノ書信也、少ナカル可
ク、榮歎ノ廣業海ヲ主張シ、又ハ列女ノ大勲ヲ圖ルル論文ヲ
作り得ルノ外交官神アル可シト榮氏廣ク任公上流社會ニ
出入シ、貴婦人令嬢ノ相子トシ、音楽芝居、其外美術
等ノ業、次ヲナシ、又舞踊モ亦舊ニ出來ルノ外交官神
多カラカルガ如シ然リ、而シテ我々外交官ノ夫人ニ至リテハ、此交
能カク備フルモノ、男子ヨリハ一層少ナキガ如シ、小友ノ一知
人曰ク、政務外交官ニシテ妻ヲ携帶スルモノハ、外交社會ニ
於テ二人前ノ御キヲ為シ、日本外交官ニシテ妻ヲ携帶セ
ルモノハ、經合其人一人前ノ御キヲ出來ル人ト見テモ、其御キ為

ノニ半人前ニ減スト、其後果ニテ為レリトスルモ之ニ從來ノ有
様タルニ過キス、今ノ時ハ決シテ此ノ如キ状態ニ安ニス可キ、秋
ニアラス日、本婦人ノ多數ガ今日迄、政務外交社會ニ於テ自
由ノ運動ヲ出來カリシハ、政務外交上ノ經驗ナリ、且ツ言語
ニ通セサルガ為メナリ、十數年前、幾多ノ經驗ヲ積ミ、外交官
夫人ノ心ヲ以テ心トシ、熱心銳意以道ノ練習、進達ヲ心
懸クルルハ、豈ニ其温養ヲ極ムルノ得カルノ理アラシヤ、蓋シ
本邦ノ婦人質ヲ美ナラサルニテラス、性敏ナラサルニテラス之ニ異
ルニ、少ク假定ノ在、勤儉増於テ以テシ、又書信也、及外交補
別ニ前題ノ家賃補助料、及家具買入補助料ヲ以テセハ
不十分ナカウ、妻ヲ除クニ、外交社會ニ出入セシメ、又受日ヲ設
ケテ、人ヲ接見セシムルノ得、可リ、十年十五年又ハ廿年間、練
習ノ後ニ、政務外交社會ノ事情ニ熟達シ、公使ノ夫人トナ

ルニ至テハ此外交上ノ技術此外交官夫人ニ方ラサルニ
至ルヲ決シテ難キニアラサル可シ密スルニ外交官自身ノミナラ
ズ外交官ノ事モ亦夫同様秩序の経歴ヲ縮マサル可カラキ
ルモノナリ是即チ少者ガ事也若クハ外交官補ニシテ
妻ヲ携帶スル者ニハ妻ヲ交際社会ニ出ストリ得ルニ足
ル諸般ノ費用ヲ支込セント欲シテ止ム能ハサル所以ナリ
我外交官界ノ有様概チ前掲ノ如クナラシカ凡ソ外交官
ナルモノハ必要ニ際シテハ并論固ヨク為サレ可カラズ駁撃亦
固ヨク試ミサレ可カラズトモ此一面ノ事也此或ハ十回ノ并論
ニ勝ルノ成績ヲキニシモアラサルヲ忘ル可カラズ書誌者最惠
ム衆歎遠用ノ範圍ヲ論スル便益セサルニアラサル可シトモ此
其之ニテ平素系信ニ上流ノ社会ニ交際リ居テ五ノ閣下
ノ所謂舊勳達至ノ向ニ信ニ若クハ日弁ノ關係アル才ニ不

意向ヲ誘引察知スルニ比スレハ其ニ便ヨク益スル決シテ法
律論ニ比ニアラサル可ク外交官補ガ列石ノ大勢ニ因スル論
文の筆スル有益ナラサルニアラズ然レモ其之レヲ信ニ上流ノ社
会ニ交ワリ結ビ此外交界社会ノ事情ニ因シテ日應
酬談笑ノ向ニ我ノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ探ルニ能力ヲ養成
シ置ルニ加カスト信ニ向トナル書誌者外交官補ナルモノハ
カクホスル地位ニアルモノニ比スレテカク養育ノ地位ニアルモノナレバ
ナリ
然レモ今日ニ至ルニ我歴代ノ外務大臣ハ彼所ニテ書キ物リ
作リ外交官ノ職務ヲ欠キ斯レニ是事ニ傍ラレレノ欲スル者
向ク為シ居リテ外交界社会ノ事ニ少シモ通モ任ニ上流
社会ヨリ其有無存亡ヲ知ラレシテ終リタル者即チ外
交官ノ心ヲ以テ心トセサル外交官ニ對シ創裁ヲ加ヘントスルノ

方針の執ラレタル一アルカ又時ニ或ハ借金の爲ニモ實際
社会ニ出入シ付テ事情ニ適應シ付テ上流社会ノ感情
ヲ得依リテ以テ我帝ノ勤ムルノ感情ノ進歩セシ
下リザリ且其ノ外交官ノ目的ヲ達スル道程ヲ比較
的多分ニ強過シタル者ヲ如何ナル眼ヲ以テ之レヲ見ラレタルカ
今一例ノ舉ケルハ故某書生者ハ書キ物ノ方ハ餘リ長所
ニアラカリシモ頗ル政務社交上ノ慣習ヲ熟知シ交際最モ
巧ミテテ有リテ上流社会ニ交リ人ノ教養ヲ受ケ同書生
者ヨリ依頼ヲ申出テタル一ハ好感情ヲ以テ容ラレザリシ
一殆ント無カリシカ如キ有様ナリト云フ例ハ先年我海軍
一士官多不(来遊シボリ)軍艦要塞の一見シタルト
希留王ヲ迎ヘタルヲ以テ同書生者(其當時臨時代理公使)
ハ右要塞觀望預ニ聞スル多不(外務省)駐在公使ヲ

退マシテ一々集セシニ任書詔ハ先年同一ノ希望ヲ有セシ
士官来遊ノ功多不(政府)断然之ヲ拒絶シタルノ例ヲ引キ
以テ其時代理公使ノ政府ノ承認セザル所ナル可シト、言及リテ
ベシニ同臨時代理公使ハ「直シト」一言ヲ發コシ軍務外務
ノ両省ニ赴キ何人ヲ如何様ニ説キタルヤ知ラサレト軍艦
要塞ヲ我士官ニ觀覽ヲ許容ス可キ、内相侯ヲ遂ケ然
ル後正式ヲ踏ミ外務省ニ公然然公使ノ提出シタリシニ
自不(政府)無異議之ヲ許可シ我士官ハ多不(軍務省)
ヨリ然シ一人ノ士官ヲ送属セシメ我士官ハ好意退リ受ケ同
軍艦要塞ノ視察ヲ遂ケタリト云フ元來博白不(軍務省)
が特ニ者也ヨリ一人ノ海軍士官ヲ送属セシメタルハ表面上我
士官ヲ好過シタルノ觀ヲ示スルモ其実ハボラ軍艦ノ要塞
ヲ外不(士官)觀覽セシムル一ハ元來許容ス可カラサルモノナレ

我當時代理の使、依頼ヲ拒絶スルハワルヲ以テ無余余儀
之ヲ許容セリト兼氏左リトテ密塞中、最も秘密ニセサル可
カラサル部分ヲ觀覽セシムルハザルヲ以テ我士官ニ觀
覽ヲ許ス範圍及程ヲ考テ、固シ右程ニ屬シ士官ヲ登テ
口頭ヲ以テボリテ、軍港密塞所屬ノ長官ニ訓令シタル由
心ニ出テタルモノ、如リ密塞セラレハ一事ヲ以テスルモ同軍が如
何ニ當ルニ於テ好感情ヲ以テ受ケラレ如何ニ同軍が機敏ニ
運動シタルカラ推察スルニ足ル可シ

夫レ以、如リ同軍が任去リ好感情ヲ以テ受ケラレ其交の上流
社会ニ接ヒテ沈湮機敏、運動ヲみシタルハ、証跡アルニモ、固シ
ス本商ニ於テ同軍、鉅賂ヲ収シタル者アルヲ固カスナザル
同海外ニ在勤セシモ官卒フニテニ業書化者ニ列シタルニ居
キス宜シ同軍ハ本商ニ於テハ寧日受ケ宜シカラカナルナリニガ

如シ小方ハ其何が故ナルヤ可解スルニ甚コクマレハ外交官ナルモ
ハ并論出来サル可カラズ書物書目ケサル可カラズ報告亦
作レサル可カラサルハ勿論ニシテ其要旨用ナル言の活スト兼氏
元來并論ナルモノハ言語ヲ以テ理解者ヲ寧フノ具タルニ過キ
スレテ書目キ物及報告ナルモノハ文字ヲ以テ音意心ヲ発表
スルノ方法タルニ止マリ要スルニ音意心疏通ノ器具タルニ過
キスレテ凡ソ以テ業ノ事タルハ外交官職務ハ本體實質ニアラ
ハルナリ然ハ則チ外交官職務ノ本體實質トハ何ソヤ一
言ヲ以テ之レヲ尽セハ任不ニ對シテ自玉ヨリ良好ニ代表シ自
己ノ精神的及物質的利権ヲ進歩スルニアリテ目的
達セント故セハ必スヤ本素任不上流ノ士ト交際ヲ有コフシ
任不ノ好感情ヲ得且ツ任不ノ事情ニ熟達セザル可カラズ然
ラカレハ其并論タル迂闊・失シ其書目物タル一片ノ古紙

二均ニリ其報告タル極書中及記タルニ過キス夫レ一不不務
大匠タルモノハ若モ教範ノ端金ヲ授スル者ハ何人トモ此
球上至ル所ノ處達スル一ヲ得ル新聞紙上ニ登ルト也載シテ
ル一ノ報告ノ法ヲ而シテ後此ノ知ラレトスルモノニアラサルハ
勿論、一ナル可シ然リ而シテ書記者及外交官補等公使
ノ属僚ニテリテモ平素外交官職務ノ本體及實質ノ
何物タル一ヲ服膺シ入ツテハ別々公使ノ存足トナリ出テハ
別々公使ノ耳目トナラサル可カラサル者ナリ公使ノ命令
奉シ事務所ニ於テ書キ物及取調物等ヲ必シ其地而
般ノ庶務ヲ處理スルハ即々其手足トナルモノニシテ廣ク新
聞紙ヲ閱讀シテ日々ノ現象ヲ知リ知レテ要點ヲ流ノ書
記方外交官補ハ若者、長一人秘書官一人宮内、官史西
三人法廷武官ハ士官二人海軍士官一人陸軍士官一人

上下西院副議長及書記長一兩人上下西院、議長凡十
名位内ハ新聞記者五六名外ハ新聞通信員三四名知
己トナシ置テ一ハ極ノテ必要ナリ一テ以テ任セ政府、各部
關係アル事務ヲ處理スル、便ニ供シ又廣ク上流社會ニ
交際シテ女子、事情ニ通曉シ其実況ヲ洞察シ新聞
紙上ニ記載ナキ一ヲモ探知シ又ハ漢訳ノ模様若クハ舉動
等ニテ推察シ以テ公使ノ参考ニ供スルハ所謂公使ノ耳目
トナルモノナリ彼ヲ知リ己レヲ知ルモノハ勝ツノ原則、軍、兵家
ノ要術物ニテラサルナリ若シ外交官ニシテ愈廣ク任セ、事
情ニ通シ愈多ク任セ、上流社會及外交官社會ニ好感情
ヲ得置テハ愈多ク任セ、意向ヲ察知スル、便宜ヲ得可キハ
蓋シ疑フ、容レサル所ナリ且ツ又事ニハ正変、別アリ一國ノ
機密ハ容易ニ漏ル可キモノニ非ザルニモ、笑ハラス我レ、如キ

吾不、精神に富むる人、民の有する不、三毛、日本、三、大、秘、
密ナリト号するモノ、が突然、タイ、イス、池、載、こ、上、リ、タ、ル、一、モ、ア、リ、
又、アル、國、遊、念、ニ、控、ラ、時、外、務、長、官、が、其、日、年、後、こ、お、シ、タ、ル、
金、ト、血、ト、鉄、ノ、演、説、ハ、聖、旨、ノ、午、前、外、務、長、官、こ、面、会、ウ、求、タ、ル、
露、子、公、使、ノ、舌、頭、こ、上、リ、タ、ル、一、モ、ア、リ、タ、リ、ト、カ、固、ク、又、先、年、
我、方、与、ル、者、數、難、ガ、一、事、件、ノ、起、リ、タ、ル、こ、際、シ、一、紳、高、ト、結、託、シ、
テ、一、輩、巨、萬、ノ、富、の、財、シ、タ、リ、ト、風、説、ア、リ、シ、ガ、苟、モ、當、馬、ノ、
高、官、ニ、シ、テ、ハ、如、キ、一、ナ、カ、リ、シ、ハ、勿、論、ノ、事、ナ、ル、可、シ、ト、長、尾、平、
素、當、馬、ノ、貴、歟、ト、智、信、ナ、ル、紳、高、中、ニ、ハ、或、ハ、一、輩、巨、萬、ノ、
富、ヲ、得、シ、タ、ル、モ、ナ、シ、ト、斷、言、シ、難、シ、何、ト、ナ、レ、ハ、貴、歟、ハ、平、素、
智、意、ノ、人、未、沛、セ、ハ、面、会、シ、タ、ル、可、リ、面、会、ス、レ、ハ、淡、流、モ、お、シ、
タル、可、リ、日、本、ノ、事、ナ、レ、ハ、食、事、時、に、附、レ、ハ、曉、モ、出、テ、タ、ル、可、ク、
酒、モ、或、ハ、出、テ、タ、ル、可、シ、酒、席、ハ、長、竹、石、ニ、百、リ、易、キ、モ、ナ、リ、

故、其、間、ニ、ハ、世、間、流、モ、ア、リ、タ、ル、可、ク、或、ハ、時、事、問、題、ニ、モ、及、ビ、
タル、可、シ、又、其、紳、高、來、相、場、ニ、手、ヲ、出、テ、先、人、ナ、ラ、ハ、或、ハ、米、
ノ、賣、買、ノ、事、ニ、モ、及、セ、レ、ト、號、ラ、メ、サ、ル、ニ、モ、限、ラ、サ、ル、可、シ、而、シ、テ、
貴、歟、ハ、一、言、モ、米、ノ、賣、買、ナ、ル、カ、得、タ、買、ナ、ル、カ、ニ、關、ス、ル、言、見、テ、述、ハ、
ガ、リ、シ、ト、ス、ル、モ、機、敏、ノ、人、ハ、平、素、智、信、ニ、交、際、シ、其、人、ノ、言、決、動、
作、及、慣、習、ヲ、熟、知、ス、ル、者、ト、扱、ハ、酒、席、ニ、控、テ、淡、流、ス、レ、ハ、以、
心、傳、心、ニ、テ、其、賢、ヲ、是、ト、ス、ル、カ、賣、買、ヲ、是、ト、ス、ル、カ、リ、推、察、ス、ル、一、
得、サ、ル、ニ、モ、限、ラ、カ、ル、ナ、リ、左、レ、ハ、汝、不、ノ、機、密、ナ、リ、ト、テ、平、素、六、方、際、
屋、ニ、置、ク、片、ハ、時、ニ、或、ハ、吾、不、ノ、赤、心、ヲ、以、テ、滿、タ、カ、レ、タ、ル、清、齋、潔、
白、ノ、君、子、若、ク、ハ、事、ニ、全、ク、關、係、ナ、キ、其、人、ノ、丈、人、業、ノ、言、語、舉、
動、等、ヨ、リ、因、ラ、ス、推、察、ス、ル、一、得、ル、ノ、便、ナ、キ、ニ、モ、限、ラ、カ、ル、可、シ、
況、ン、ヤ、古、界、附、ル、所、不、清、齋、不、潔、白、ノ、人、ア、ル、可、ク、以、テ、永、ク、
交、際、ス、ル、中、ニ、ハ、不、清、齋、ノ、人、ナ、ル、カ、得、タ、不、潔、白、ノ、人、ナ、ル、カ、事、

アルニ當リテハ如何ナル方面ニ向フヲ毎用リマス可キ人ナルカ等ハ
大概推知スル一リ得可キニ於テヤ蓋シ平素素出師準備ヲ
整ヒ置クノ必要ナルハ決シテ軍隊ニ於ケルノミニテラサルナリ
此、如何ノ方ガ外交際ノ外交官ニ必要ナルヲ茲ニ陳述セリト
名氏是レ決シテ之ガ為ニ書キ物報告及取調等、下ノ輕
視スルニテラスレテ如何ニ實際勤務ニ於テ望ム点無キモ役所
勤務ニ於テ欠ケル所アル其完全ナルモノニ似カルハ勿論ナリト
名氏遂來、如何ノ役所以外ニ外交官ノ勤務無キガ如キ觀
ヨロ王レ外交官ニ最モ必要ナル實際勤務ナルモノヲ輕視
セルハ宜シ且其如何得サルモノニシテ其重キヲ之ニ置カレサリシ
一ハ我レ外交官界ニ實際勤務ナル者、廣ク用ヒ居ラレ
タルヲ見テモ之レヲ知ルニ足ル可シ之レヲ要スルニ我レ年外交
官夫妻ハ實際社会ニ出入シテ既レト政務人ト同様ノ勤ヲ

為シ得ル様心懸ケサル可カラス然リ而シテ其之レヲ心懸ケシレ
ル、方法ハ實際勤務ヲ奨励スルニアリ實際勤務ヲ奨励
セント欲セハ實際社会ニ出入シテ公使、耳目トナリ又耳
目トナラント心懸ケルモノヲ事務所ニテ書キ物等ヲみシ公使
ノ手足トナリ又手足トナラント心懸ケルモノトサク氏同様ノ取扱
ヲ度シテ遂來ノ弊風ヲ一洗シ手足トナル氏耳目トナリ外交
官ハ外交官ニ非スト、身ヲ示スルニ如クハナシ之レ最モ必要
ノ手段ナリト信ス

外交官役所勤務ト實際勤務ノ關係及外交官能力
判定ノ標準凡ツ左ノ如クナラシカ

特別優等 耳目手足アル者即チ事務所勤務ト實際
勤務兼備者
優等第一種 耳目ト手トアル者又ハ耳目ト足トアルモノ即

于立際勤務完全なるモ事務所勤務に於て
右如き所アル者

優等第二種

于足上耳若クハ于足上目アル者即チ事務所
勤務完全ナルモ立際勤務一部欠ク者

上等

耳上于又ハ目上ト足上ト有スル者即チ事務
所勤務立際勤務共ニ其一部有スル者

中等

耳目ノミヲ有スル者又ハ于足ノミヲ有スル者
即チ事務所勤務完全ニシテ立際勤務比
無ク者又ハ其全ク反對者

下等

耳目于足ノ其一ヲ有スル者即チ事務所
勤務及立際勤務中一部欠ク者

劣等

耳目于足共ニ不全ナル者即チ事務所
勤務立際勤務共ニ欠クセサル者

此階級、区分タル固ヨリ其人ノ器、大小ノ際キテ立テタルモノナ
リト余氏要スルニ外交官、能力特ニ書生官以下ノ勤務能
力如何ノ判定スル、標準ナルモノ可キモノナリト信ス然レモ是
立際勤務ニ勉勵セル者少ナキヲ以テ一時ノ獎勵策トシテハ
立際勤務ニ勉勵ナルモノ(即チ耳目タル者)ヲ事務所勤
務ニ勉勵ナル者(即チ于足タル者)ヨリ反テ一層良好ノ活況
ヲ興ヘ仕年ノ外交官ヲシテ是策兼振ハカリシ立際勤
務ニ心ヲ傾ケシノ頼リテ以テ閣下ノ所謂應酬漢子ノ間ニ
我ノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ探リ得ル様ノ良ノ外交官ノ訓練スルノ
基礎ヲ作ルハ宜ニ遠切臨機ノ所置ナルガ如シ若シ又シ書
キ物ノ立際上ニ置キ于足ヲ以テ耳目上ニ位セシヲ以テ耳
目ノ効用ヲ輕視シ將來我ノ外交機關耳目彙達ヲ吐絶
スルガ如キコトアラハ當ニ至当ノ所置ニアラサルノミナラス決シテ

策宜ニキリ得タルモト謂フ可カラサルナリ

以上所述セル如ク我々近年外交官ヲ歸ハ語學ノ研究セ
ル可カラサルノ必要アリ又政務ノ風俗慣習特ニ交際社会ノ
事情ニ練熟セラル可カラサルノ必要アリテ以テ二者ハ政務外交
官ノ練習ノ要セサル一ニシテ我々アリテハ鋭意専心研究
練習セラル可カラサルナリ換言スルハ我々外交官練習ノ
範圍ハ政務諸事ノ外交官ニ比スルハ極メテ廣シ故ニ我々
於テハ既ニ第一編ニ於テ述ヘタル如ク學識ト性質トノ兼
備セル外交官ヲ任用シタル上ハ一年以内本官ノ勤務ヲ取
ラシメ然レ後之ニ政務諸事ノ各公使館ニ在勤セシメ政務
諸事ノ例ニ依ルニ公使館書記官及外交官補佐等一節四五
名乃至六七名止増員シ公使ニ委ヌルニ其教育及練習
ノ法ヲ以テスル一ニ本編及我々陸軍ニ於テ近年士官ノ教育

練習ノ任ヲ蒙リテ一切之ヲ聯隊長ニ委テ其教育練習
ノ成否ハ聯隊長ヲシテ責メルハシムルガ如クス可シ果シテ
以テ加クスルハ近年外交官即チ學識ノ外交官ニ要スル學
識ト性質トノ有スル者ヲシテ練熟ナシ真正ノ外交官
ニ養成スルコト得ルニシテ是レ來、如ク人強リ、際非常困難
難ク感スル如キコトナキニ至ル可シ又ニ聯隊長ハ此士官ノ練習
所ニ使館ハ少シ外交官ノ訓練所ナリ然リ而シテ政務外交
官ハ此士官ノ日本少シ外交官ノ最良練兵場ナリト
謂ハラル可カラス故ニ少シ外交官ハ可成屬練兵場タル交
際社会ニ出入セシムルコトス然レ是レ來、如ク操縦術ノ三
不ニ使館ハ書生ノ置カス多クモアラヌ書生官若クハ外
交官補ヲシテ事務所ノ整理ハ分海收入出納及物品
ノ會計及其他外交官ノ事務ト關係ナキ所般ノ庶務

口取扱ハカシメタリ、横濱國公使館其事務因テ繁忙多
端ナルニアラカル可シト、若氏免テ一館、併裁ヲ為シ、先以
上ハ眼ニ見セシ、雜用隨分多シト謂ハカル可ラス、即チ出
張官更ノ職務品會計官更ノ任、其外公館石波ノ庶務
ハ一人、此事務トシテ、眞價ハ十分アルモ、ナリ書記官外交官
補會計出兼カルテラス、只會計事務ノ人、如クナレバ
シテ持テ小友、如キハ處本尙會計課、手數の煩ハシ具
意外ニ長財同シ、兼數ニ費シ、其本任ノ職務の妨
ルノ差アルニシ、如キ雜務及會計ノ必、公使ノ手足トナリ
公使ノ耳目トナリ、又已レ自カウモ、他日有為ノ外交官タラ
ント心懸ケル可カラシ、書記官外交官補ヲ駆使シ、
外交官本兼ノ勤務及練習ノ怠ラシムルニ於テハ、
兼、外交官學ヲレト、欲スト兼氏豈得可ケンヤ、以テ若シ

幸ニ前顯ノ身見ノ連リ、練習ノ目的ヲ以テ、各公使館、少
仕外交官ノ多致、在勤セシムルモ、決シテ之レハ外交官職
務外ノ庶務若クハ會計事務等、駆使セズ、事務所ニ
於テハ用務の欠カサル限リ、可成多ク内外ノ新聞雜誌等
ヲ讀マシメ、一ツモ多ク訪問ヲみカシメ、多ク語學ヲ練習
セシメ、若氏ヲ見セタリ、オベラニ遣ワタリ、不設ノ事音楽、事
舞踊ノ事等ヲモ、研究セシメ、又館員代ル々々、諸所旅
行セシメ、政況上及社會上ノ見聞ヲ博シ、且ツ俗ノ事情ニ
通曉セシムルト同時ニ、先ツ以テ一個ノ政務的紳士トナリ、
習フシムル可トス、何トナレハ外交官ニ取ラシ、紳士アレハ紳士ニ
アラサル外交官ナレハナリ、
之レヲ要スルニ書記官若クハ外交官補ノ駆リ、會計其他
外交官ノ職務ニ關係ナキ雜務ニ使役スルハ外交官ノ

本務及疎習の二大障碍の興フルモノトス。以テテ事務少ナ
キが如キ觀の呈スル公使館にモ一人ノ書生ハ生リ派シテ可成永
ク同一地ニ在勤セシメ以テ其不ノ事情ニ適慶セシメ事務所
ノ整頓物品ノ保管物品ノ買入物品ノ供送家具ノ預貯
又ハ受入方算會計及雜務ヲ處理セシムルハ實ニ必要ノ
トナリト信ス但シ之が爲ニ非常ニ多額ノ支出ヲ要スル儀
ナレハ別ニ考慮ヲ費サレ可カラスト余氏三館ニ在リ書生
生リ配置スルニ要スル金額ハ公館ニ幾多ノ利考ト便宜
トナリ削リ外交官存案ノ勤務及疎習ノ一部ヲ犠牲ニ
供シ將來我外交ノ振興ニサカサレハ障碍トナルヲ見ケモ
尙其支出ノ躊躇スル程多額ニテラサルナリ。夫レ公使館ハ
陸海ノ大別人ノ長所ヲ使フハ人ノ役スルノ道ナリ。物ヲ夾ム
ニハ缺リ以テス可ク弊ヲ削ルニハ剃刀の以テス可シ書生ハ

遣、有無事小ナルが如シト虫氏伏スル所、利害ハ大ニシ
テ其影響者スル所至ツテ深シ閣下幸ニ賢案ヲ垂レ候
伊箇ノ三不ニモ書生ハ生リ派遣シ以テ外交官ヲシテ其本
來ノ職務ヲ執ラシメ且ツ其疎習の妨ケカラシメント切ニ
希望ニ堪ヘラルナリ

第四章

外交官、監督及檢閲

第一 外交官、監督

第一章ニ於テ述タル要件ヲ以テ外交官ヲ撰拔任
 命シ之レリ待遇スルニ第二章ニ於テ説キタル方法ヲ以テ
 レ之レヲ練習セシムルニ前章ニ於テ陳タル事あり以テハ
 帝ニ外交官界ニ十年來ノ旧弊ヲ一洗シ十數年
 ヲ出テスレテ外交機關ノ實質ヲ更換シ練習致達
 ノ良外交官ノ收獲スルヲ期シテ待ツ可シト余氏若シ
 外交官監督ノ方法ニシテ其宜シキヲ得ナルハ其年
 効ニ一大障礙ヲ與フ可シ然ラハ則テ外交官ハ如何ニ
 監督セラレザル可カラサルヤ是即チ本章ノ問題ナリ

外交官ヲ監督スル、任ニ充ルモノハ外務大臣ナルヲ勿
論ナリト兼テ遠シ海外ニ在勤セル各外交官ノ事務的
能力及實際的能力ニ付適当ノ判斷ヲ下シ如何ナル
程度迄進ミ居ルヤ等ヲ測量シ且ツ之ヲ監視スル
ハ實ニ至難ノ業ト謂ハサル可カラズキヲ以テ從來任
不政府ノ信任ヲ得仕人ノ士ノ好感情ヲ享ケヤ人ノ
達ニ能ハルルノ達ニタル人ニテモ其功績ヲ知ラズシ
テ終リタルモノアリ之ニ及シテ任不ニ於テハ其人ノ存亡有
無ガモ知ラガリシ人ニテモ巧ニ往復文ヲ綴リ法律論
ヲ及シ得ルモノ及テ敏職ナル、觀リヨ至シタルノナキニア
ラカルカ如シ是レ外交官ノ監督ヲ嚴密ニセサル可カ
ラリル所以ナリ然リ而シテ外交官ノ監督ノ主趣タル
ハ外交官全体ハ申スニ及ハス外交官各員各個人ニ

於テ其能力具能力ノ應用具應用ノ成績換言スレ
ハ事務的能力及實際的能力、如何ヲ審査測定
シ其長所ト短所ト其長短ノ程度トヲ事實ニ適
当セル様測方ニ進ミ過クモノヲ退カシテ退クニ過
クモ進マシメ以テ其中適ラシムルノ資質ニ供ス
ルト同時ニ公平ノ優劣不適當ノ進退ヲ為ララシム
ルニアリ而シテ公使ニテハ總令文書上ナルニモセヨ外務
大臣ト直接往復シ居ルヲ以テ之レが能力及技術ヲ測
定スルノ敵テ非常ニ困難ナルニテラカレ可シト兼テ其
進退ノ外交官補業公使ノ屬僚ニ至テハ公使ノ上申ニ
目撃ツクニアラガレハ之レが能力及技術ヲ測定スルノ事
ト可カラカレナリ要スルニ書信有外外交官補業ニ屬
僚ノ長短能否ヲ比較的最モ善ク測方シ得ル也

位ニアルモノハ所屬長官タル公使ナリト謂ハサル可カラズ故ニ
館員ノ監督權ヲ舉テ名實共ニ之ヲ公使ニ委任スル
ヲ可トス迄來トテモ館員ノ直接ニ監督セル者公使ナ
リシテ勿論ナリト名氏公使ガ館員ノ監督ニ関シ外務
大臣ニ對シ全權責ヲ負フ、規定ナキヲ以テ茲ニ改テ
明確ナル規定ヲ設ケ公使ニ委ヌルニ外務官監督ノ實
權ヲ以テシ又重キヲ公使ノ監督ニ置キ公使ヲ以テ所屬
外務官ノ能力成否ヲ監視ニ其勤怠ヲ測リ其教
育ヲ司リ其誘導ノ責ニ付セシムルヲ惟モ軍隊ニ於
ケル聯隊長ノ加ナラシメ外務大臣ハ重キヲ公使ニ上申
ニ置キ預リテ以テ壯年外務官ノ優劣進退ヲみテ
資ニ供スルト同時ニ下級外務官ヲ以テ平素奮勵ノ
勇氣ヲ鼓舞スルヲ可トス若シ夫レ一俸ノ書類若クハ

風評等ニ基テテ外務官實質的眞價ヲ測ラセシ
トセハ時ニ或ハ全ク反對ノ判斷ヲ下スニ至ルノ恐レアラシ
ク蓋シ公使ノ屬僚タル書記官外務官補等ノ進退ス
ルニあり其所屬長官タル公使ノ具申ニ基テハ事
ノ順序ニ於テ然ルノミナラス公使ハ實際已ニ屬僚ノ能
力勤怠心ヲ最モ比較的定然ナル判斷ヲ下スノ地位ニ
在ル者ナレハナリ

書記官以下外務官ノ監督前迹、如シ若シ夫レ公使
ノ監督ニ至テハ外務大臣ノ自轄ニ屬スル固ヨリ其所ナ
リト名氏公使ノ視ニ依リ特ニ外務官ヲ監督スル
ノ機關ヲ設ケ以テ外務大臣ノ監督ヲ神速セシムルヲ可
トス其方法ハ外務省内ニ外務官監督委員を以テ
ルモノヲ常設シ外務大臣政務局長及法務局長外務官

ニシテ病氣ニテウケル者ヲ(待命外交官ニシテ外交官監督
委員員ニ任セラルタルモノハ本條三分ノ二ヲ占スルトス可シ)
以テ之レヲ組織シ委員員ニ任フルニ各公使ノ報告及
諸般ノ書類ヲ調査シ外務大臣ノ命令ハ微細ノ事
ニ至ル止徹底シ居ルヤ否ヤヲ審議シ事ノ否否ヲ判
断シ又所屬々僚ノ教員ハ誘導及一般ノ監督具
實ニキニ適フヤ否ヤヲ査定セシメ且ツ一般ノ外交改
正ニ付テモ口頭若ハ書面ヲ以テ意見ヲ上申シ得ルノ職
権ヲ與フ可シ

右ノ如ク外交官監督委員員ニ任セルモノヲ及ケントスル主
タル目的ハ外交官ノ監督上外務大臣ヲ補助スルニアレ
ルニ三ツノ副タル目的アリ即チ外交事務ノ實際ニ遠
カリ居ル待命外交官ヲシテ外交ノ實際ニ近ヅクノ便

宜ク此ノ年素外交事務ノ實際ニ注意セシメ以テ其
能力ノ著落衰頹ヲ防キ其活カリ奮起進歩セシメ
又一期補欠ノ必要アルニ際シ何時ニテモ活カル良外交
官ヲ派遣スルヲ得且ツ海外在勤員ヲシテ自然一
層奮勉職務ヲ執ル結果ヲ致カシムルニ是レナリ

第二 外交官ノ檢閲

前述ノ如ク外交官監督委員員ニ任セルモノハ外交官監督
委員員ナルモノハ常ニ在リテ書類及其他ノ情況ヲ
判別シ下スニ過キカルヲ以テ外務大臣ノ命令ハ果シテ事
實のニ激應シ居ルヤ否ヤ公使ニ如何ナル感情ヲ以テ
任不致否ヲ受テ居ルヤ其公使ノ有様如何書
記書以下報告ノ事務的及公使の体力ハ果シテ公

使、上申、符合、シテ、其、公使、属僚、教育、日及、活、通、手、
ハ、其、法、ニ、適、合、スル、ヤ、否、ヤ、等、其、其、次、ノ、知、テ、至、難、ナリ、ト
謂、ハ、ル、可、カ、ラ、ス、以、テ、以、テ、外、交、官、檢、閲、ノ、法、ヲ、設、ケ、三、年、
乃、至、其、事、ニ、及、フ、外、交、監、督、年、番、員、長、ニ、テ、ラ、レ、ハ、外、務、
次、官、若、リ、ハ、外、務、次、官、ノ、信、任、ス、ル、特、命、公、使、若、リ、ハ、政、務、
局、長、ヲ、撰、拔、シ、テ、檢、閲、官、ト、爲、シ、テ、外、交、監、督、年、番、員、
ニ、三、名、ト、屬、員、數、名、ヲ、以、テ、シ、在、外、各、公、使、館、ヲ、檢、閲、セ、
シ、ル、コ、ト、可、ト、ス

檢閲官、職權左、如、シ

第一 外務大臣、年令、ニ、繳、齊、シ、テ、ル、ヤ、否、ヤ、ヲ、審、査、
ス、ル、コ、ト

第二 外務大臣、訓令、ヲ、傳、達、シ、及、其、誤、明、ヲ、以、テ、
(但、シ、之、ハ、口、頭、ヲ、以、テ、傳、達、ス、ル、如、知、在、ル、場、合)

第三 公使、若、リ、ハ、其、他、館、長、ハ、改、府、及、上、流、
社、會、ヲ、如、何、ナル、感、情、ヲ、以、テ、受、テ、ラ、レ、居、ル、ヤ、
ヲ、推、考、論、議、ス、ル、コ、ト

第四 書、誌、者、及、外、交、官、紳、業、ノ、事、務、如、及、外、交、
的、勤、務、ノ、果、シ、テ、公、使、若、リ、ハ、館、長、ノ、上、申、ト、符、
合、ス、ル、ヤ、否、ヤ、ヲ、取、調、フ、ル、コ、ト

第五 公使、ノ、属、僚、ノ、教、育、日、(主、ニ、外、交、官、紳、ニ、對、シ、)及、
活、通、具、其、宜、ニ、キ、ニ、適、フ、ヤ、否、ヤ、ヲ、檢、査、ス、ル、コ、ト

第六 公使、館、ノ、位、置、事、務、所、ノ、整、頓、公、使、任、在、ル、
節、リ、台、々、及、一、般、報、員、品、位、ノ、良、否、ヲ、調、査、ス、
ル、コ、ト

第七 公使、ニ、對、シ、意、見、ヲ、述、ヘ、公、使、ノ、意、見、ヲ、叩、キ、質、
問、ヲ、爲、シ、テ、各、年、再、リ、求、メ、又、必、要、ナ、リ、ト、思、惟、ス

ルハ報負ノ意見ヲ徵求シ若シ報負ニシテ
意見ヲ述ベントスルモアル片ハ公便立合上之
レヲ聽ル可シ

檢閲官ハ凡ソ前記ノ職權ヲ以テ各公使館ヲ巡檢辱同
スル片ハ略具自相ニ近キ判例ヲ下スレテ得可シ然レモ
第三第四掲ケタルモノニテハ檢閲官ハ到底十分ニ
之レヲ遠察スル一途ハナル由ニト案氏親シク本人ニ會
談シ必要ナル情同ハ其數ヲ限ラス之レヲ裁シテ各公使
ヲ求メ至班ノ情況ヲ以テ之レヲ推考シ各館ヲ對照比
較シテ判例ヲ下サバ之レヲ日本ニ於テ書類ニ於テ判例
ヲ下スモノトシ其完否決シテ同日ノ海ニアラケルナリ
檢閲官檢閲ヲ終リテ帰朝シタル上ニ至ホニ案スルモノト
告報者負ニ關スルモノト其間見視察ノ實況ヲ單シ

之レニ意見見コト付シテ復々書ヲ提出シ又親カラ外務
大臣ニ面談シテ其事情ヲ細述スル一トセハ外務大臣ハ
殆ント自カラ各館ヲ檢閲シタルガ如クモ官ガラニシテ各館者
員ニ關スル後台ノ知識ヲ得各館ノ近況ヲ目前ニ觀
ルノ思ハリ得其効用利益決ニテサニニアラザル可シ然リ而
シテ以テ別方ニシテ實定ハセラルニ至ラハ自然一層在外各
員ノ注意ヲ喚起シ又檢閲ノ任ニ當リタル者ヲ以テ外交
事務ニ關スル應キ宜キ事ヲ經驗ヲ積マシメ一舉三益
ハ良法ト言フ可シ是レ小友ガ外交官檢閲ノ制ヲ
採ラント欲スル所以ナリ

結論

夫功之成非成於成之日蓋必有所由起征清、後我陸
海軍が古今未曾有、大勝ヲ得タル、維新以來茲ニ
三十年放々トシテ陸海軍、整備ニ刻苦シ攻々トシテ士官
ニ養成ニ精勵シタル、結果ナリト謂ハカル可ラス若シ夫レ
我ニシテ三十年一日、如ク陸海軍士官ヲ養成セシ程ノ執心
心ト奮発シテ以テ銳意ニ外交官ノ養成ヲ奨勵シタリト
セハ其結果タル山縣大將ヲ生見セル得ズ現外務大臣「ア
ノト氏ヲシテ」貴不陸海軍ハ長足ノ進歩ヲみシ名譽ニア
ル戦勝ヲ得タル也外交ハ未ダ陸海軍ノ程ヲ達シテ居ラ
ズト、言ハ其名頭ニ浮バンナガリシハ殆ンド疑ナキガ如シ
夫レ禍之作不作於作之日亦必有所由起「天下ノ事
一トシテ自作無他授他作無自授」因果應報ハ佛子

教義存ナキニ枝ニ花ハナシ蓋シ外交官ナルモノハ決シテ野
生山長ノ性質ヲ帶有スルモノニアラザルナリ陸海ノ士官ニ表
成テ治テ始テ其全キヲ得ルモノナリトセハ外交官モ亦養成
セラレサル可カラサルナリナラバ諸ヲ誦スル久シ之レヲ養セカリシ
ハ未タ時ヲ得カレハナリ然ルニ客聊閣下ノ在外理爲ニ無ク
レタル外交官針ニ突スル訓令ノ様讀ムルノ業ヲ得テ閣下外
交擴張ノ市深慮ト閣下ノ市卓見トニ感佩シ特ニ「以任
務ヲ實行スルニハ勢廣ク任國上流ノ士ト實際ヲ百子フシ
應酬談笑ノ間ニ我レノ意ヲ通シ彼ノ見ヲ探ルニ如カス又
以費多額ヲ充ツルモノ特別ニ相多ク金銀ヲ支払ス可シト
ノ二句ヲ熟讀シ欣喜雀躍自カラ禁スル能ハス私ニ日
本外交ヲ裁テ三呼セシハ實ニ昨年十二月十二日ノ午
前ナリキ

米艦浦賀ニ到リ海内長夜ノ迷夢ヲ破リ不ヲ完ヒラ
各トト實際スル茲ニ四十有余年其間外務ニ幾多ノ
長官ヲ見タリト兼氏「應酬談笑ノ間ニ我ノ意ヲ通シ彼
ノ見ヲ探ルニ如カストノ外交官ノ奥義ヲ示シタルモノアルヲ
直カス蓋シ以奥義ヲタル言簡而意遠語高而旨深後
ノ外交官タルモノ當ニ直シク脈理ヲ不可キノ金言ナリト
閣下ノ以言アル所以ノモノ一ツハ閣下がけ勢ヲ達觀セラレタル
ニ由ル可シト兼氏柳亦閣下卓識精敏ノ致ス所ナリト
謂ハル可カラス然リ而シテ亦友以卓見ヲ尊シ以テ閣下ノ
劉賓ヲ煩ハスハ洵ニ閣下ノ卓見ト閣下が字外潮流
ノ趨勢ヲ洞察セラルノ明敏トヲ欽慕スルト同好ニ我外
交將來消長ヲ觀慮スル一片ノ赤心糞動シタルモノニ
シテ具甚見實識ヲ觀ニス之ヲ敬テシタル所以ノモノハ所

謂「請自隲始」、王者ヲ襲用シタルモノナリ希クハ閣下
外交官界ノ事情ニ適慮スル疎熟老達ノ士ニ諮リ之レカ意
見ヲ徵シ固執用意事、實際ヲ調査セシメ沈黙遠慮外
交官ノ任用及其待遇一変シ以テ優才賢士外務門
ニ集ルノ道ヲ開キ外交官ノ練習及監督法ヲ明確ニシ
テ以テ敏達熟練ノ良外交官ヲ養成シテ數年、後ニハ
政務清平ノ外交官ニモ力ヲ加ル、良外交官ヲ収獲スル
ノ策ヲ審セラレシトテ其効果決シテ陸ニ救國、兵ヲ増シ
海ニ救艘、空艦ヲ加フルコトヲ力ヲ可シ夫レ外交及兵備ハ
西輪西習、關係アリトセバ我ニ既ニ陸海軍滿擴張ノ
策アリ外交豈ニ独リ依然其旧制ヲ墨守シ其旧態ニ
沈淪ス可キモノナランヤ閣下、外交方針ニ關スル訓令ヲ
各使臣ニ與テ目下又外交擴張ノ計畫ニ着手セラル

蓋シ此ノ見ル所アリテナラン夫レ征伐ノ大役ハ我國
第一ニ強クシテ條約改正ハ外交第一ノ強クナリ
ト謂ハサル可カラス我國ノ外交々々形式ヨリ
性ニテ實際的、偏私的ヲ性ニテ雙務的、客
觀的ヲ性ニテ主觀的ヲ性ニテ條約的ヲ性ニテ操
縱的ニ入ル雄才老練ノ外交官必要ナルヲ大
早ノ雲霓ヲ望ムガ如シ外交官養成ノ一トタル
一日ヲ急シハ下ノ換アリ一月ヲ送シハ二月ノ換アリ百
シク速ク新然色ヲ決シテ之レガ準備ヲ着手
十數年ノ後ニ陸海軍が數十條ノ刻苦ト精
勵トシ以テ於シタル進歩ニ方ラサル進歩ヲ爲ス大
計ヲ畫セサル可カラス陸ニ五十萬ノ餉銀ヲ備ヘ
海ニ廿餘万噸ノ艦鐘ヲ浮ベ和親國ニ派スルニ

英才統遠ノ外友ヲ以テシ之レヲ統ブルニ遠謀
雄略ノ士ヲ以テセハ縦ハ露英ヲ擣縦シ招併ヲ左
右スル迄ニ至ラストスルモ我國權ノ伸張國威ノ
光輝決シテ如ク比ニアラサル可ク虎狼ノ牙巨
鱗ノ爪何ソ以テ意トナスコト見ラシヤ裕然覇ヲ
東洋ヲ樹テ凜然雄ヲ東部ニ稱シ十數年後
ノ佛國外務大臣ヲシテ司弁ノ外交ニ最近十四五
年ニ同ク此等ノ長足ノ進歩ヲ為シ今ヤ外交
ニ多ク備モ同一ノ字ガニ進シ者進ミツキルトノ
言ヲ發セシムル一決シテ難キニアラサル可シ諸フ
國ハ茲ニ一大災劫ヲ施コシ以テ遠大ノ宏圖ヲ畫シ
其然ルヲ防サシメヨ之レニ関スル費用支出ニ多ク
方法ノ如何ニ至ツテハ雄才健腕ナル國ハ方寸

中ニ存セシ者又何ヲ力言ハシヤ諸フ國之レヲ
裁セヨ軍シテ此ノ如クハ國之レニ固ク在リ國ヲ危
スル豈我勝一將師ノ比ニシテ止マンヤ必スヤ國下ノ
功業ヲ唱ヒ國之レノ偉績ヲ稱スルモノ輩ニ今代
四千万ノ同胞兄弟ノミニアラサル可シ諸フ
國之レヲ救フセヨ
茲ニ擱筆スルニ迄ニ平素國之レニ對シテ保羅
スル敢言ヲ表ス
於此再報

明治卅年六月十日

左煥旬園

乙使館二塔書記友畑吉右郎

外務大臣伯壽大隈重信撥



Blank page with a red border and faint, illegible ghosting of text from the reverse side.

